

北海道縦貫自動車道(中川^{なか がわ}～天塩^{てし お})

第3回 説明資料

令和7年12月11日

国土交通省 北海道開発局

目 次

1. 計画段階評価の検討の流れ
2. 第2回地域意見聴取結果
3. 対応方針（原案）の検討
4. 自治体への意見照会結果
5. 対応方針（案）のまとめ

1. 計画段階評価の検討の流れ

1-1) 計画段階評価の進め方(案)

- 令和6年9月13日から令和7年1月31日の約4ヶ月の間、第2回地域意見聴取を実施。
- 本委員会は第2回地域意見聴取の結果、対応方針(案)の検討について議論。

【令和4年12月23日】

北海道
地方小委員会

- 【審議内容】
- 計画段階評価
手続きの進め方
 - 地域・道路の
現状と課題
 - 地域意見聴取方法
(案)

【令和5年6月29日
～ 8月20日】

地域意見聴取
(第1回)

- 地域・道路の課題
- ◆意見聴取方法
＜ヒアリング＞
対象者
・沿線自治体等
・関係団体
- ＜アンケート＞
対象者
・地域住民
・道路利用者
・観光客

【令和5年11月16日】

北海道
地方小委員会

- 【審議内容】
- 地域意見聴取の結果
 - 地域意見を踏まえた
路線の政策目標(案)
 - 地域意見を踏まえた
路線の整備方針(案)
 - 比較ルート(案)
(複数案)
 - 地域意見聴取方法
(案)

【令和6年9月13日
～ 令和7年1月31日】

地域意見聴取
(第2回)

- 路線の整備方針
- ◆意見聴取方法
＜ヒアリング＞
対象者
・沿線自治体等
・関係団体
- ＜アンケート＞
対象者
・地域住民
・道路利用者
・観光客

今 回

北海道
地方小委員会

- 【審議内容】
- 地域意見聴取の
結果
 - 対応方針(案)
の検討

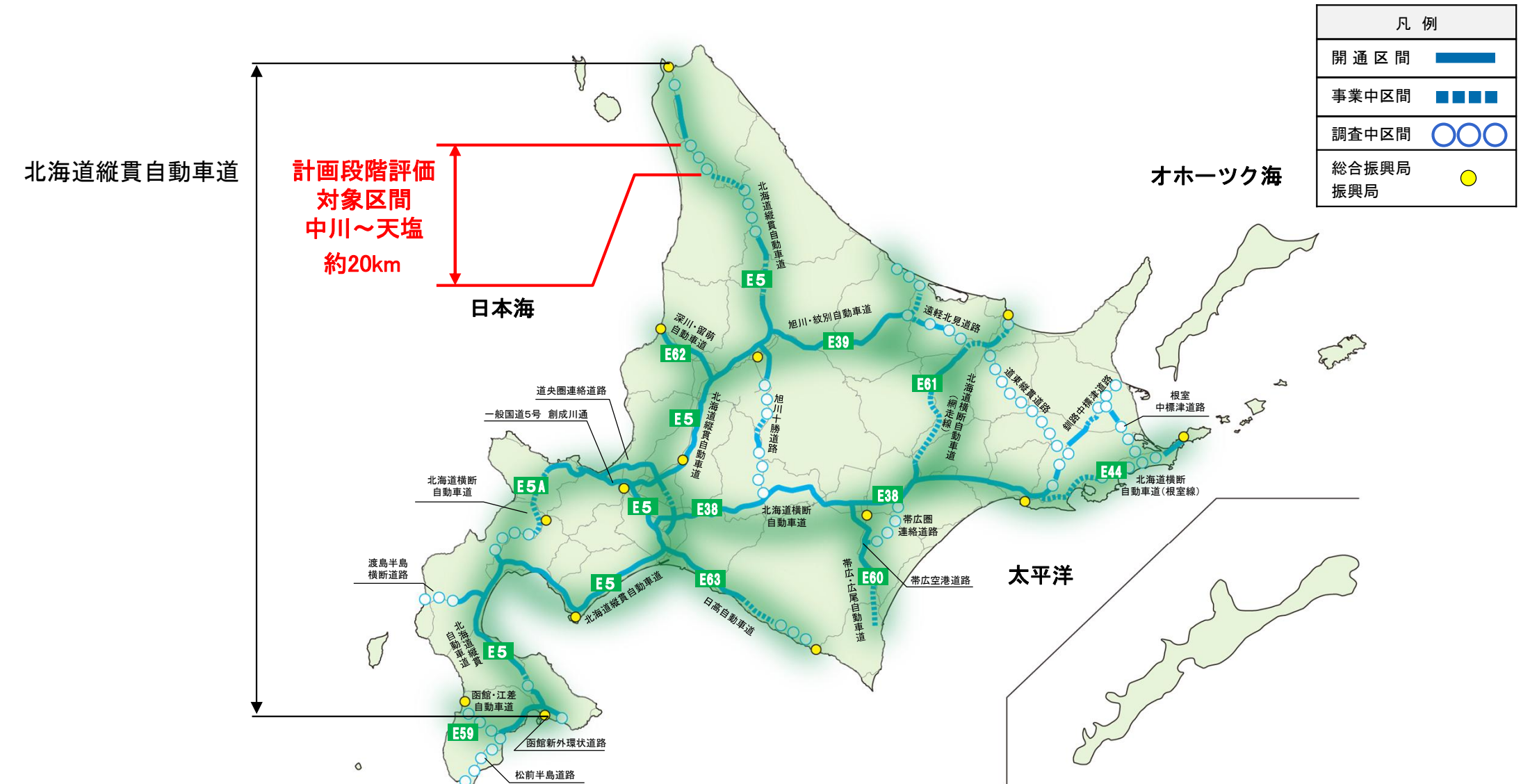
対応方針の決定
(概略ルート・構造等)

北海道地方小委員会

※各段階で随時自治体と調整

1-2) 北海道の高規格道路網

- 北海道縦貫自動車道は、函館市を起点として室蘭市、札幌市、岩見沢市、旭川市を經由し、稚内市へ至る高規格道路。
- 評価対象区間は、中川町から天塩町へ至る北海道縦貫自動車道の一部区間。



1-3) 北海道縦貫自動車道の進捗

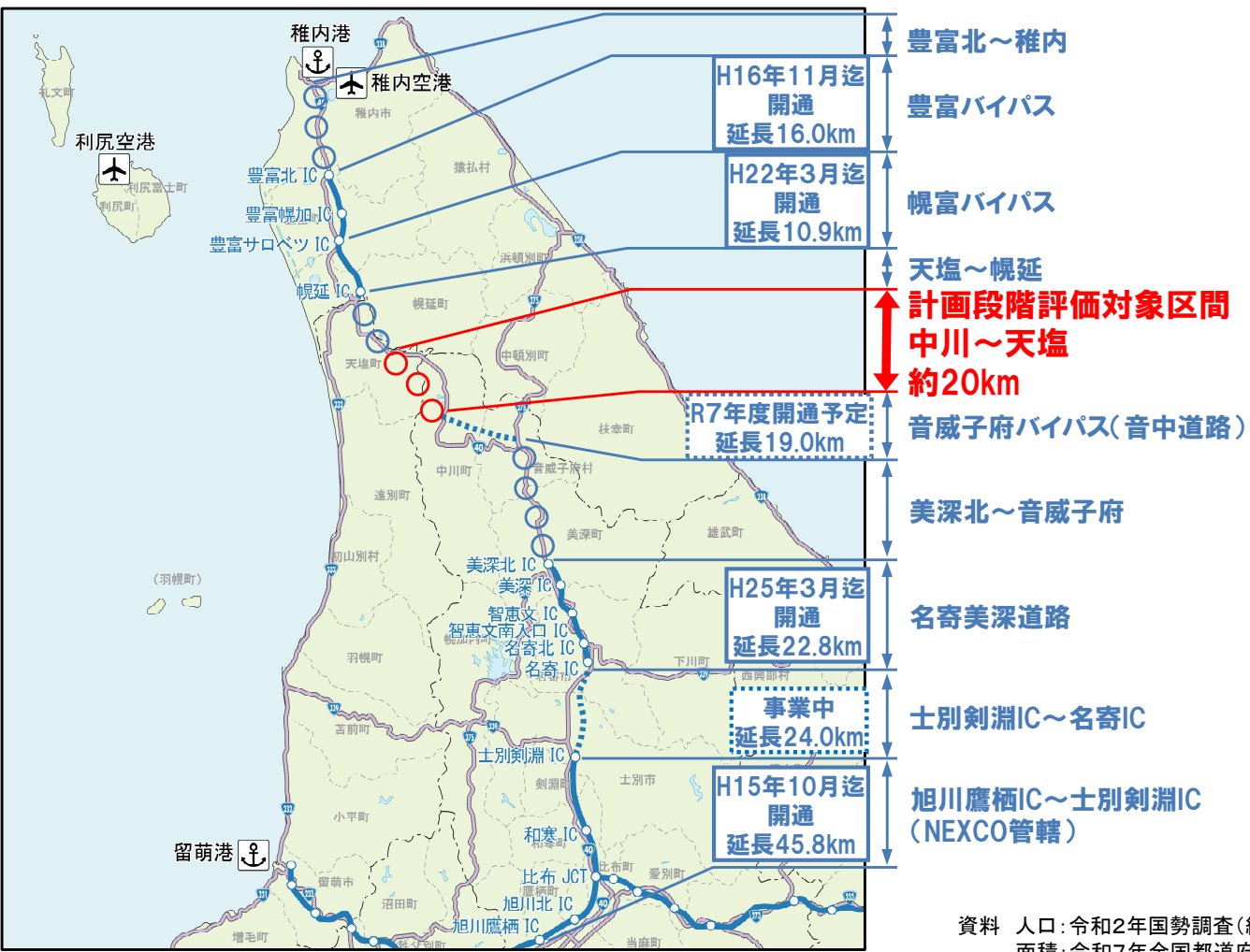
- 北海道縦貫自動車道のうち旭川鷹栖インターチェンジから稚内間では、旭川鷹栖インターチェンジから士別剣淵インターチェンジ、名寄インターチェンジから美深北インターチェンジ、幌延インターチェンジから豊富北インターチェンジが平成24年度までに開通済み。
- 士別剣淵インターチェンジから名寄インターチェンジと音威子府バイパス(音中道路)が事業中であり、このうち音威子府バイパス(音中道路)は令和7年度に開通予定。
- 当該区間は、事業中の音威子府バイパス(音中道路)と接続する延長約20kmの区間。

▼位置図



凡 例		
開 通 区 間	■	
事業中区間	■■■	
調査中区間	○○○	

自治体	人口(人)	面積(km ²)
稚内市	33,563	761.42
豊富町	3,974	520.69
幌延町	2,371	574.10
天塩町	2,950	353.56
中川町	1,528	594.74



1-4) 前回委員会での主な意見と対応

■第2回計画段階評価（第34回北海道地方小委員会）の概要

実施日
令和5年11月16日(木)
議事内容
○地域意見聴取の結果 ○地域意見を踏まえた路線の政策目標(案) ○地域意見を踏まえた路線の整備方針(案)
○比較ルート(案) ○地域意見聴取方法(案)

■第2回計画段階評価（第34回北海道地方小委員会）での主な意見と対応状況

主な意見	対 応	資料
・物流や医療では時間短縮が重要であるが、観光ではこれに加え目的地への 定時性確保が重要である。	・ヒアリング調査において、その他の項目として観光に関する 意見を聴取。	資料2:P7
・道北の物流は、搬入・搬出それぞれに対してどこからどこへ行くのか把握する ことが重要であるため、第2回地域意見聴取の際に確認すること。	・ヒアリング調査において、調査対象に関わる物流の品目 や発着地・経由地を聴取。	資料2:P8
・アンケート項目を簡潔にするとともに、一般の方が理解しやすい表現等を使用 した方が良い。	・アンケート調査票については、専門的な用語を使用せず、 分かりやすい表現とした。(例:「狭小幅員」を「道路の幅 が狭い区間」と表現) ・また、アンケートはがきは小さいため、書体や文字間隔を 工夫することで読みやすさを改善。	資料2:P9

※第35回北海道地方小委員会（R5.12.19）における主な意見と対応状況

主な意見	対 応	資料
・今後の意見聴取では、1世帯1回答ではなく複数人が回答できる工夫や質問 項目の中で優先すべき項目の順位を把握できるような回答欄を設けてみては どうか。	・アンケート調査票に2名まで回答可能としたことで、配布 の集票が5,811票(第1回)から7,133票(第2回)に増加。 ・全体意見に占める女性の意見が23%から33%に増加。 ・アンケート調査等において項目を追加し、優先すべき項目 を把握し、アンケート分析に反映。	資料2:P9～10

1-5) 前回委員会での主な意見の対応結果

◇観光時の定時性に関する意見内容

主な意見	対 応	資料
・物流や医療では時間短縮が重要であるが、観光ではこれに加え目的地への定時性確保が重要である。	・ヒアリング調査において、その他の項目として観光に関する意見を聴取。	資料2:P7

▼観光時の定時性に関する意見

地域意見聴取ヒアリング調査

〇〇〇〇〇 様

質問4 その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等がありましたらお聞かせください。

以上です。御協力ありがとうございました。

ヒアリング時の質問4「その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等」の際に観光に関する意見を聴取し下記の意見を受けた。



観光連盟とのヒアリング

分類	主な意見
ヒアリング	・道北地域は主要観光地間の距離が他地域に比べ極端に長い為、北海道縦貫自動車道の延伸は喫緊の課題といえる。特に、利尻礼文サロベツ国立公園など離島への観光はフェリーの運行時刻なども踏まえ <u>確実に目的地に到着</u> するためにも、本計画が適正に評価されることを望む。(観光機構)
	・観光面では、 <u>限られた日程の中での拠点間の効率的な移動</u> が求められており、高規格道路の整備により周遊エリアが広がることは非常に重要。(観光連盟)

1-5) 前回委員会での主な意見の対応結果

○道北地域発の物流としては、地域の主要産品である乳製品や水産品が札幌市や苫小牧港、新千歳空港へ出荷される流動のほか、道内各地への生体牛や牧草の輸送があり、国道40号が利用されている。

○道北地域着の物流としては、日常生活に欠かせない食料品や日用品、畜産業の維持に欠かせない飼料の輸送があり、国道40号が利用されている。

◇物流の品目・発着地・経由地に関する確認内容

主な意見	対 応	資料
・道北の物流は、搬入・搬出それぞれに対してどこからどこへ行くのか把握することが重要であるため、第2回地域意見聴取の際に確認すること。	・ヒアリング調査において、調査対象に関わる物流の品目や発着地・経由地を聴取。	資料2:P8

品目	発地	着地	経由物流拠点
生乳	稚内市・豊富町・幌延町・天塩町・中川町	乳製品工場(幌延町・稚内市・旭川市・幌延町)	
生体牛	稚内市・豊富町・幌延町・天塩町・中川町	家畜市場(豊富町・安平町)・畜産公社(旭川市)・卸売業者(旭川市)・食肉加工工場(名寄市)	
牧草	稚内市・豊富町・幌延町・天塩町・中川町	道内各地(帯広市・室蘭市・釧路市・北見市等)・十勝地方など全道各地	
飼料	苫小牧港	稚内市・豊富町・幌延町・天塩町・中川町	くみあい配合飼料ホクレン西天北中継基地
野菜・穀物	中川町	全国各地	名寄駅・旭川駅・旭川市・石狩市・留萌市等
昆布	稚内市	関西・関東	苫小牧港・小樽港
ほたて	稚内市・猿払村・浜頓別町	水産加工場(稚内市・湧別町・佐呂間町)・札幌近郊・道外・海外	苫小牧港
ほたて加工品	水産加工場(稚内市)	市場(札幌市・旭川市)	
鮮魚	稚内市・天塩町・水産加工場(稚内市)・市場(札幌市)	稚内市・札幌市・旭川市・苫前町・羽幌町・東北・関東・関西等ほか・倉庫(石狩市)・水産加工場(稚内市)	苫小牧港・函館港・小樽港・新千歳空港
しじみ	天塩町	天塩町	
野菜・肉・魚等の生鮮品	札幌市	店舗(稚内市)	
生鮮食品・雑貨	札幌市	配送センター(稚内市)	
飲料水	各メーカー	配送センター(稚内市)	
乳製品	稚内市・幌延町・豊富町・配送センター(稚内市)	店舗(稚内市・旭川市)・配送センター(札幌市)・物流センター(石狩市・喜茂別町)・札幌市・石狩市・沖縄・道外	苫小牧港・小樽港・稚内空港・名寄駅
牛乳	配送センター(稚内市)・豊富町	大型小売店店舗・茨城県・沖縄県・店舗(稚内市・旭川市)・配送センター(札幌市)・関東・関西	苫小牧港・小樽港・稚内空港
肥料(配達)	倉庫(天塩町)	天塩町・遠別町・幌延町(問寒別)・中川町・音威子府村・初山別村・苫前町	
肥料(引き受け)	三笠市・砂川市・旭川市	天塩町(倉庫)	
宅配便	道北地域各地・全国各地	全国各地・道北地域各地	新千歳空港・苫小牧港
鮮魚・冷凍品	稚内市	札幌市・関東・関西	苫小牧港・函館港
雑貨	石狩市・札幌市・旭川市	道北地域各地	
家具・建具	石狩市・旭川市	道北地域各地	

1-5) 前回委員会での主な意見の対応結果

◇回答はがきデザインの変更

主な意見	対 応	資料
・アンケート項目を簡潔にするとともに、一般の方が理解しやすい表現等を使用した方が良い。	・アンケート調査票については、専門的な用語を使用せず、分かりやすい表現とした。(例:「狭小幅員」を「道路の幅が狭い区間」と表現) ・また、アンケートはがきは小さいため、文字を工夫することで読みやすさを改善。	資料2:P9
・今後の意見聴取では、1世帯1回答ではなく複数人が回答できる工夫や質問項目の中で優先すべき項目の順位を把握できるような回答欄を設けてみてはどうか。	・アンケート調査票に2名まで回答可能としたことで、配布の集票が5,811票(第1回)から7,133票(第2回)に増加。 ・全体意見に占める女性の意見が23%から33%に増加。 ・アンケート調査等において項目を追加し、優先すべき項目を把握し、アンケート分析に反映。	資料2:P9～10

▼第1回 回答ハガキレイアウト

郵便はがき

0778790

料金受取人払

留 萌 局 認

000

北海道留萌市 寿町1丁目68番地

留萌開発建設部 道路計画課

北海道縦貫自動車道(中川～天塩間)

道路計画に関する意見聴取係 行

■あなた自身のことについて(記入または該当する番号に○)

住所 〒 北海道 市・郡 町・村

性別 ①男性 ②女性 年齢: 歳

職業 ①会社員 ②公務員 ③農業 ④漁業 ⑤林業 ⑥観光業
⑦学生 ⑧主婦 ⑨物流・輸送 ⑩商業 ⑪工業 ⑫無職
⑬その他()

■自動車運転する頻度を教えてください(該当する1つに○)

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど運転しない ⑤運転しない

■国道40号中川～天塩間の利用頻度を教えてください(該当する1つに○)

①毎日 ②週数回 ③月数回 ④ほとんど利用しない ⑤利用したことがない

■国道40号中川～天塩間の主な利用目的を教えてください(該当する全てに○)

①通勤・通学 ②通院 ③家事・買物 ④仕事(営業・運送等)
⑤観光・レジャー ⑥その他()

北海道縦貫自動車道(中川～天塩間)第1回アンケート回答欄

質問1 道北地域の将来を見据えた地域の課題について

1-1 以下のA～Dの項目について、該当するもの1つに○をつけてください

	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
A 物流車両の輸送時間、安全性	1	2	3	4	5
B 救急車両の搬送時間、安定性	1	2	3	4	5
C 冬期悪天候による国道通行止め	1	2	3	4	5
D 天塩川氾濫による国道通行止め	1	2	3	4	5

1-2 上記以外で課題だと思うことがあれば、ご自由にお書きください

質問2 国道40号中川～天塩間に必要な道路機能について

2-1 以下のA～Dの項目について、該当するもの1つに○をつけてください

	そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない
A 物流車両の輸送時間の短縮、安全性の確保	1	2	3	4	5
B 救急車両の搬送時間の短縮、安定性の確保	1	2	3	4	5
C 冬期悪天候時の道路の耐災害性	1	2	3	4	5
D 天塩川氾濫時の道路の耐災害性	1	2	3	4	5

2-2 上記以外で必要だと思うことがあれば、ご自由にお書きください

質問3 その他のご意見

中川～天塩間についてご意見・ご要望がありましたらお書きください

▼第2回 回答ハガキレイアウト

郵便はがき

0778790

料金受取人払

留 萌 局 認

433

北海道留萌市 寿町1丁目68番地

留萌開発建設部 道路計画課

北海道縦貫自動車道(中川～天塩間)

道路計画に関する意見聴取係 行

はがきでは、ご家族2名まで回答可能となっておりますので、可能であれば2名回答頂きますよう御協力お願い致します。
2名で回答頂ける場合は、表中の①②行にそれぞれ回答を記載ください。

■あなた自身のことについて(記入または該当する番号に○)

住所 〒 北海道 市・郡 町・村

性別と年齢 ① 男性・女性(年齢: 歳代)
② 男性・女性(年齢: 歳代)

■自動車を運転する頻度を教えてください(該当する1つに○)

1. 毎日 2. 週数回 3. 月数回 ① 1. 2. 3. 4. 5
4. ほとんど運転しない 5. 運転しない ② 1. 2. 3. 4. 5

■国道40号中川～天塩間の利用頻度を教えてください(該当する1つに○)

1. 毎日 2. 週数回 3. 月数回 ① 1. 2. 3. 4. 5
4. あまり利用しない 5. 利用したことがない ② 1. 2. 3. 4. 5

■国道40号中川～天塩間の主な利用目的を教えてください(該当する全てに○)

1. 通勤・通学 2. 通院 3. 家事・買物 ① 1. 2. 3. 4. 5
4. 仕事(営業・運送等) 5. 観光・レジャー 6. その他*
② 1. 2. 3. 4. 5
※6. その他の場合は、括弧内に内容を記載ください

北海道縦貫自動車道(中川～天塩間)第2回アンケート回答欄

2名で回答頂ける場合は、表中の①②行にそれぞれ回答を記載ください。

質問1 対策案(ルート案)の検討で重視すべき項目

	特に重視 すべき	やや重視 すべき	どちらとも いえない	あまり重視 する必要はない	重視する 必要はない	優先 項目
A 新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への輸送時間短縮	① 1	2	3	4	5	
B 各都市の高度医療施設への救急搬送時間短縮	② 1	2	3	4	5	
C トンネルや橋梁等の道路の幅が狭い区間、事故危険区間の解消	③ 1	2	3	4	5	
D 地吹雪区間や天塩川氾濫による洪水浸水区間の解消	④ 1	2	3	4	5	
E 災害発生時の避難・復旧を支える代替路の確保	⑤ 1	2	3	4	5	

質問2 対策案(ルート案)の検討で配慮すべき項目

	特に重視 すべき	やや重視 すべき	どちらとも いえない	あまり重視 する必要はない	重視する 必要はない	優先 項目
A 家屋や施設、土地利用などへの影響が小さいこと	① 1	2	3	4	5	
B 自然環境への影響が小さいこと	② 1	2	3	4	5	
C 工事中の交通規制による一般交通への影響が小さいこと	③ 1	2	3	4	5	
D 建設に要する費用が安いこと	④ 1	2	3	4	5	

質問3 インターチェンジとのアクセスを検討する上で配慮すべき項目

	特に重視 すべき	やや重視 すべき	どちらとも いえない	あまり重視 する必要はない	重視する 必要はない	優先 項目
A 市街地から円滑にアクセスできること	① 1	2	3	4	5	
B 医療拠点へ円滑にアクセスできること	② 1	2	3	4	5	
C 道の駅等の休憩施設に円滑にアクセスできること	③ 1	2	3	4	5	
D 防災拠点へ円滑にアクセスできること	④ 1	2	3	4	5	

質問4 その他のご意見

配慮すべき項目や今後の道路整備について御意見がございましたらご記入ください

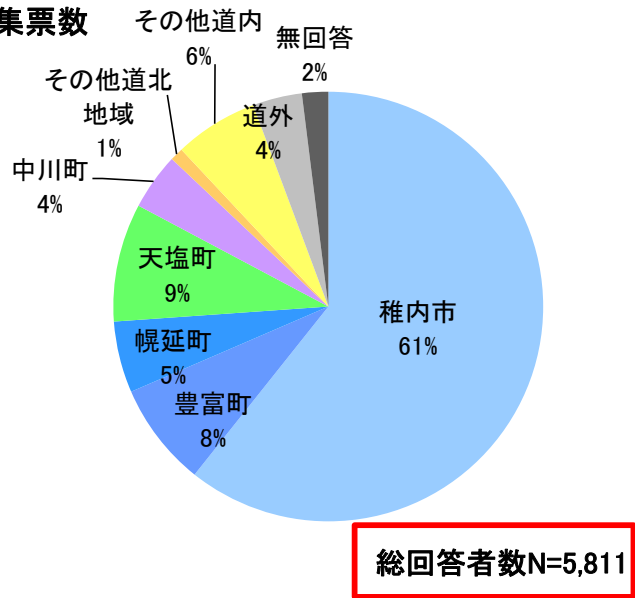
優先項目の回答欄を追加

1-5) 前回委員会での主な意見の対応結果

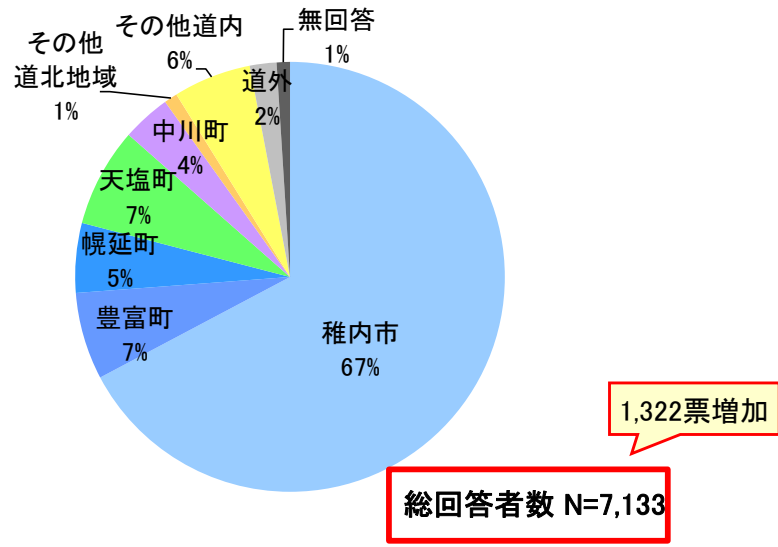
◇集票数、女性回答率の割合

主な意見	対 応	資料
・今後の意見聴取では、1世帯1回答ではなく複数人が回答できる工夫や質問項目の中で優先すべき項目の順位を把握できるような回答欄を設けてみてはどうか。	・アンケート調査票に2名まで回答可能としたことで、配布の集票が5,811票(第1回)から7,133票(第2回)に増加。 ・全体意見に占める女性の意見が23%から33%に増加。 ・アンケート調査等において項目を追加し、優先すべき項目を把握し、アンケート分析に反映。	資料2:P9~10

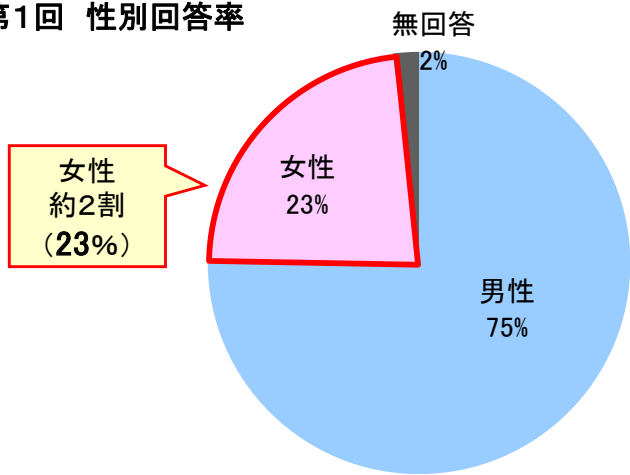
▼第1回 集票数



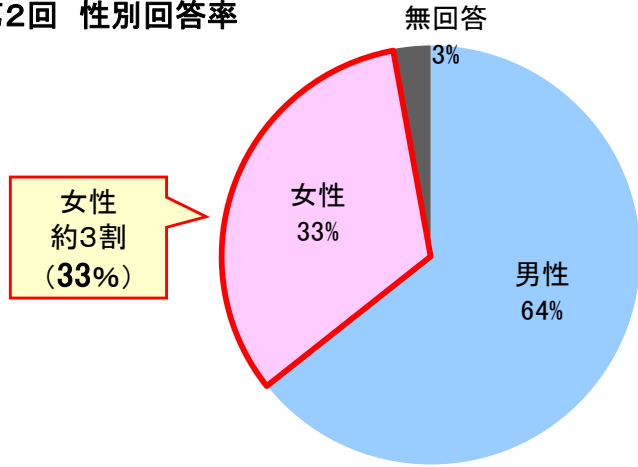
▼第2回 集票数



▼第1回 性別回答率



▼第2回 性別回答率

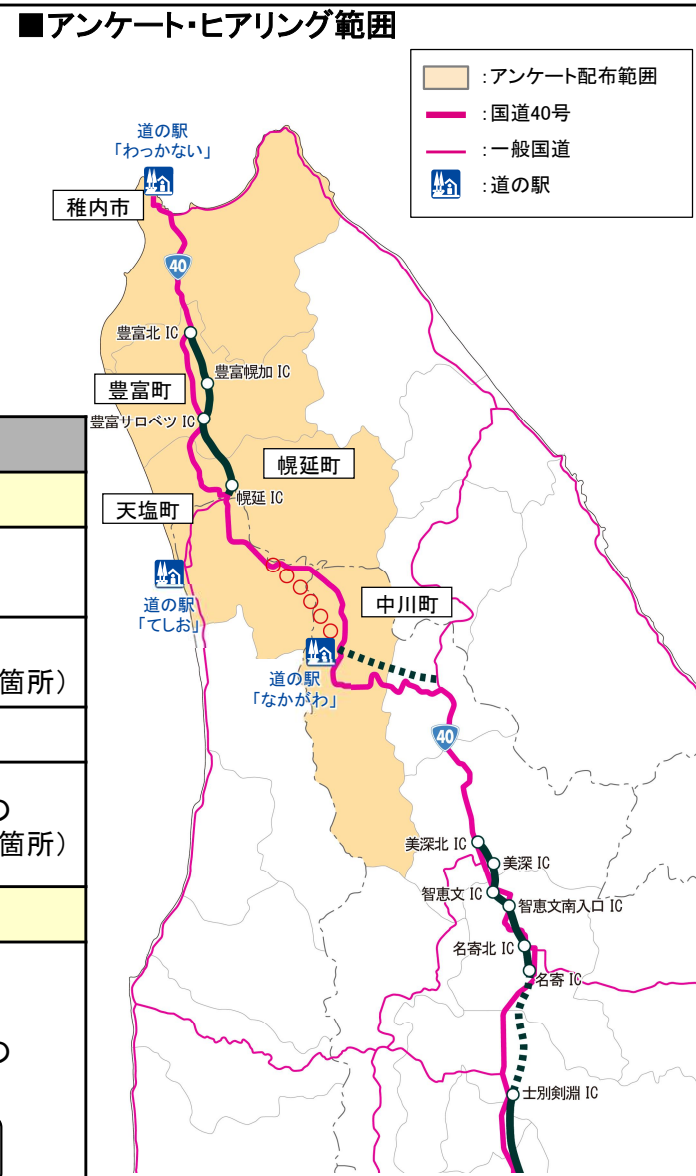


2. 第2回地域意見聴取結果

2-1) 第2回地域意見聴取の概要

○第2回地域意見聴取は、住民・道路利用者へのアンケート調査、および沿線自治体・関係団体へのヒアリング調査を実施。

■地域意見聴取期間		令和6年9月13日(金)～令和7年1月31日(金)
ヒアリング	ヒアリング	: 令和6年9月13日～令和7年1月31日
	Webアンケート調査	: 令和6年9月13日～令和7年1月31日
	郵送配布調査	: 令和6年10月15日～令和7年1月31日
	留置きアンケート調査	: 令和6年10月15日～令和7年1月31日
	観光客面談アンケート	: 令和6年9月22日(日)・23日(月・祝) 9時～17時 (道の駅)
	観光客面談アンケート	: 令和6年11月23日(土・祝) 8時30分～17時 (稚内空港、宗谷岬)



対象者・実施方法			
アンケート	【地域住民及び道路利用者】		
	地域住民※1	中川町(全戸:662戸)、天塩町(全戸:1,431戸)、稚内市(全戸:16,147戸)、豊富町(全戸:1,773戸)、幌延町(全戸:1,142戸)	郵送配布調査(21,155戸)
	道路利用者	5自治体の市役所・役場、道の駅3箇所(なかがわ、てしお、わかかない)	常設の留置きアンケート調査(計8箇所)
		広域的な利用者	Webアンケート調査
	観光客	観光施設等(道の駅「なかがわ」、道の駅「てしお」、道の駅「わかかない」稚内空港、宗谷岬)	インタビュー形式でのアンケート調査(計5箇所)
ヒアリング	【自治体及び団体代表者】		
	沿線自治体等	上川総合振興局、留萌振興局、宗谷総合振興局 中川町、天塩町、稚内市、豊富町、幌延町	インタビュー形式でのヒアリング (8沿線自治体等 59関係団体)
	関係団体※2	商工会議所、商工会(5箇所※3)、農業協同組合(5箇所)、漁業協同組合(4箇所)、乳製品工場(3箇所)、北海道トラック協会、旭川地区トラック協会、北海道バス協会、バス事業者(2社)、レンタカー事業者(4社)、北海道観光機構、観光連盟(3箇所)、観光協会(4箇所)、稚内空港、消防(5箇所)、病院(5箇所)、物流事業者(8社)、移住者(地域おこし協力隊等)(5箇所)	

※1: 戸数は実際の配布数 ※2: 関係団体のうち()が無い団体は、1箇所であることを示す ※3: 女性部を含む

2-2) 第2回地域意見聴取の概要(アンケート調査)

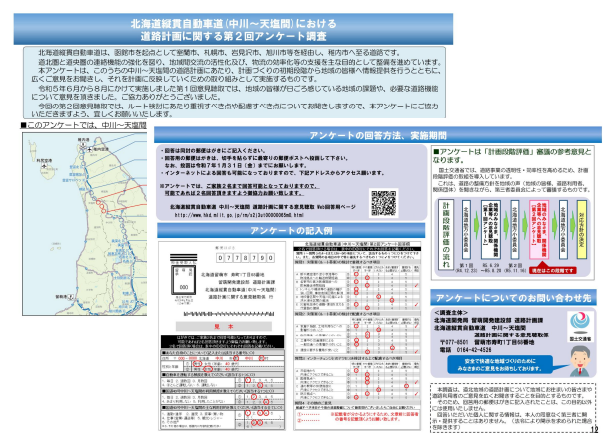
○地域住民・道路利用者に対して、対策案の検討にあたって重視すべき事項、対策案の比較にあたって配慮すべき事項、インターチェンジとのアクセスを検討するにあたって重視すべき事項について、アンケート調査を実施。

■意見聴取内容

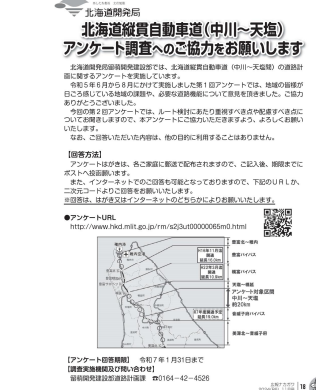
回答者属性(住所、性別、年齢、自動車運転頻度、中川～天塩間の利用頻度・利用目的)

- 問1 対策案(ルート帯案)の検討にあたって、どの項目を重視すべきか
- 問2 対策案(ルート帯案)の比較にあたって、どのようなことに配慮し計画すべきか
- 問3 インターチェンジとのアクセスを検討するにあたって、どのようなことを重視すべきか
- 問4 その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備の意見等について(自由意見)

■配布形式調査票



■自治体広報誌



中川町・天塩町・稚内市・豊富町・幌延町の広報誌(例: 中川町)

■自治体HP



天塩町のHP

■留置きアンケート調査



5 沿線自治体・道の駅3箇所(例: 天塩町役場)

■Webアンケート調査(留萌開発建設部HP)



■SNS



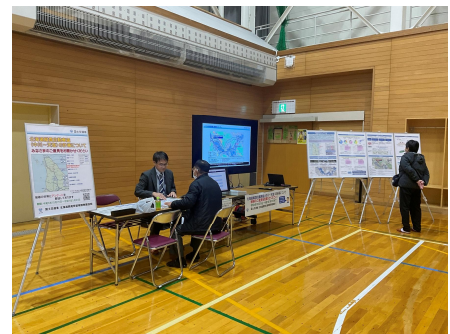
留萌開発建設部 X

■観光客面談アンケート



道の駅「てしお」(R6.11.23)(外国人へのアンケート状況)

■自治体主催イベントでの説明会



天塩町主催イベント(R6.10.24)

2-3) 第2回地域意見聴取の結果 アンケート調査(回収状況・居住地)

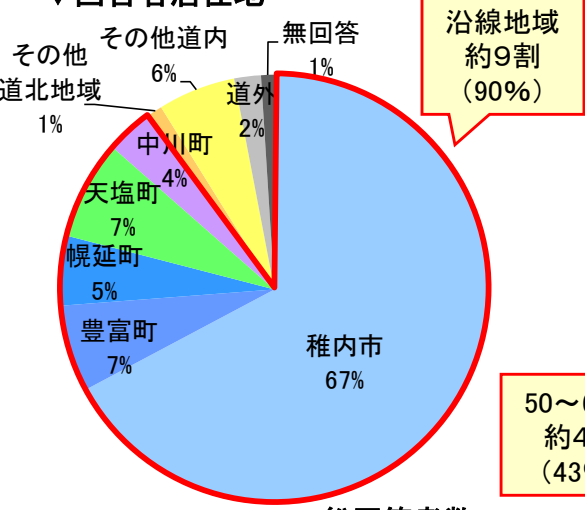
○全回収数は7,133票で、配布形式は6,273票、留置きは76票、Webは191票、観光客は593票が回答。
○回答者の居住地は、沿線地域(天塩町、中川町、稚内市、豊富町、幌延町)が約9割、その他の道北地域の市町村やその他道内・道外が約1割。
○年齢構成は、50～60代が約4割と最も多く、性別では男性が約6割と多くっており、20代以下の年齢層や女性の回答者は少ない状況。

▼調査票回収状況

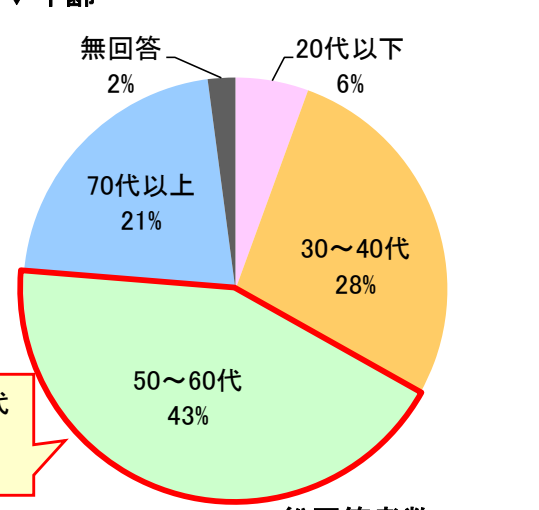
調査形式	配布数	回収数	回収率
配布(地域住民)	21,155枚※1	4,896枚 (4,896枚中 はがき回答4,232枚) (4,896枚中 Web回答664枚) (6,273票)※2	23.1%
留置き (市役所・役場、道の駅)	-	58枚 (76票)※2	-
Web	-	191票	-
面談(観光客)	-	593票 (593票中 外国人13票) (593票中 稚内空港32票) (593票中 宗谷岬8票)	-
合計	21,155枚※1	7,133票	-

※1: 配布数はアンケートを郵送した実数 ※2: ()内の票数は配布したアンケートに2票回答があった数を含む

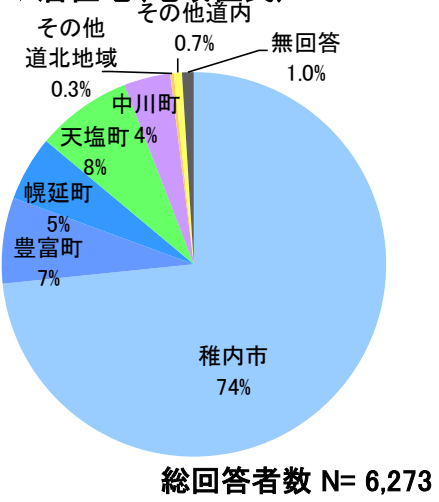
▼回答者居住地



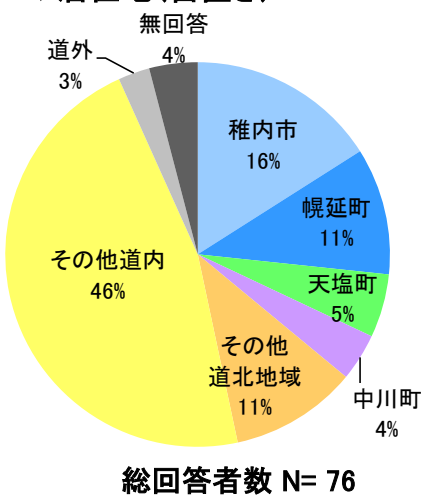
▼年齢



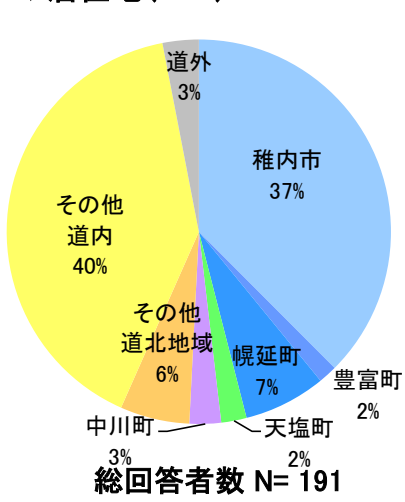
▼居住地(地域住民)



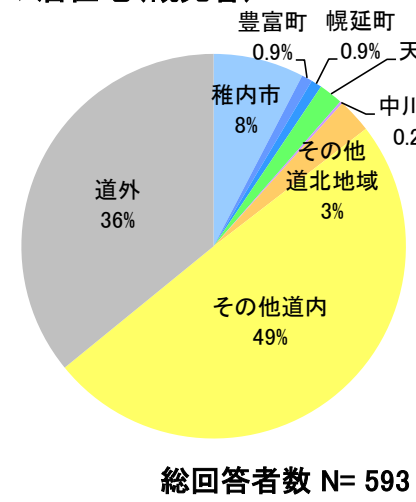
▼居住地(留置き)



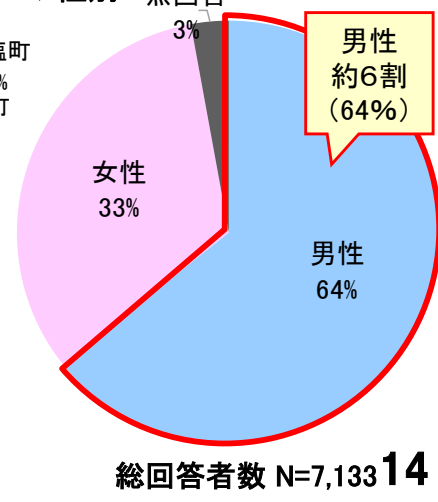
▼居住地(Web)



▼居住地(観光客)



▼性別

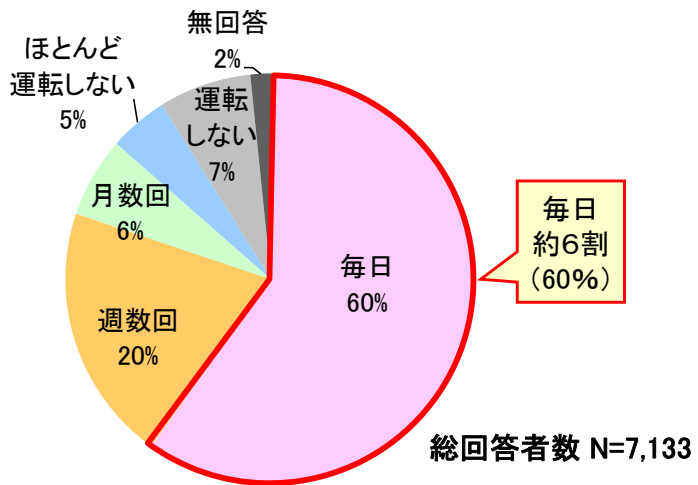


2-4) 第2回地域意見聴取の結果 アンケート調査(利用頻度等)

○自動車運転頻度は、回答者の約6割が毎日運転と回答。
○中川～天塩間の利用頻度は、「毎日～月数回」の利用者が約5割を占めている。
○中川～天塩間の利用目的は、「観光・レジャー」、「家事・買物」、「仕事(営業・運送等)」、「通院」の順で多くなっている。その他の利用目的においては、「帰省」が最多。

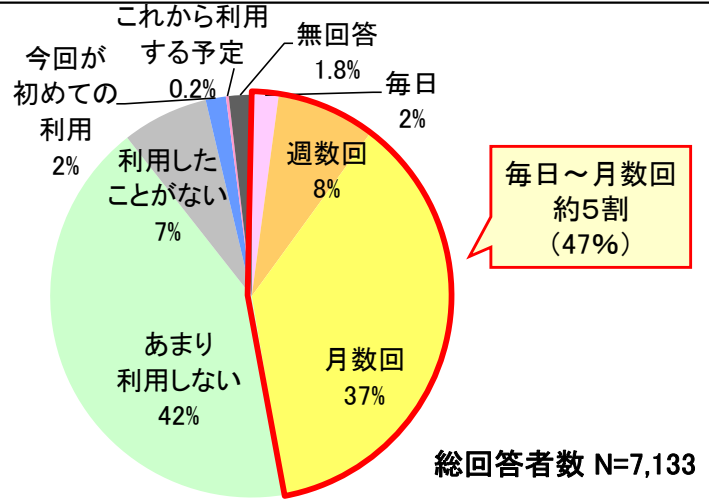
▼自動車を運転する頻度

質問. 自動車を運転する頻度を教えてください(単数回答)



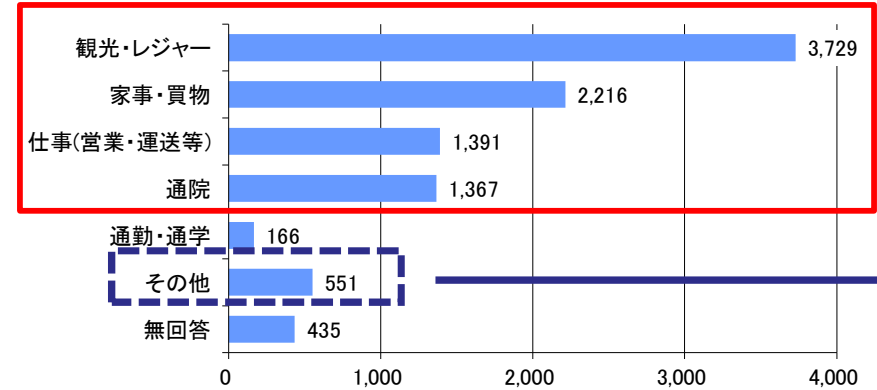
▼国道40号中川～天塩間の利用頻度

質問. 国道40号中川～天塩間の利用頻度を教えてください(単数回答)

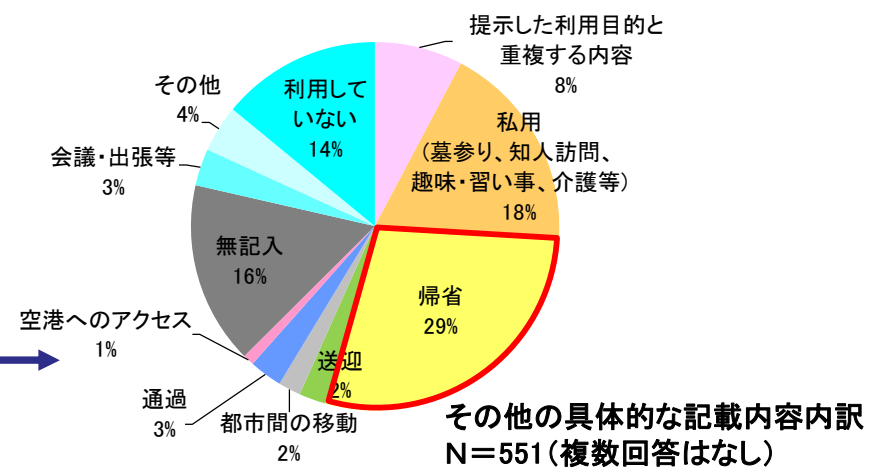


▼中川～天塩間の利用目的

質問. 国道40号中川～天塩間の主な利用目的を教えてください(複数回答)



その他項目
総回答者数N=551の内訳



2-5) 第2回地域意見聴取の結果 アンケート調査(対策案検討時に重視すべき事項)

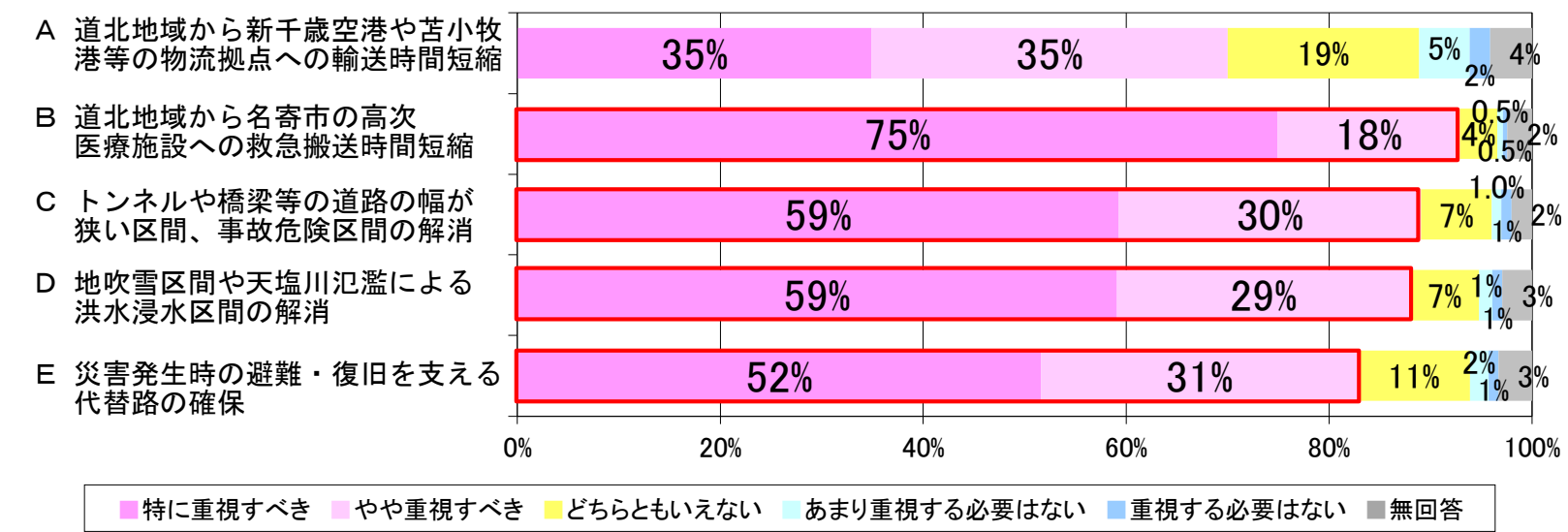
○対策案選定時に重視すべき項目は、「道北地域から新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への輸送時間短縮」以外の4項目について重視すべきとの意見が8割以上と多い。

○対策案選定時に優先すべき項目は、約5割が「道北地域から名寄市の高次医療施設への救急搬送時間短縮」を優先すべき項目と回答しており、続いて「地吹雪区間や天塩川氾濫による洪水浸水区間の解消」、「道北地域から新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への輸送時間短縮」の順となっている。

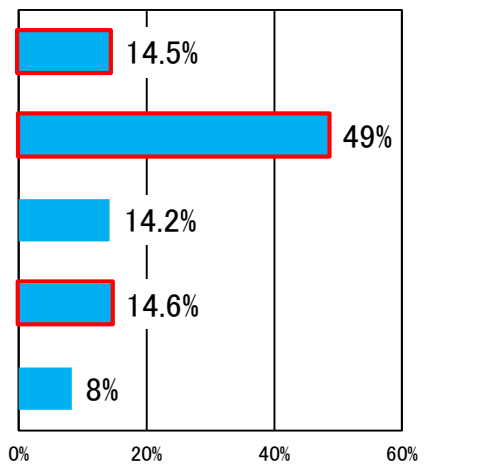
問1 対策案（ルート帯案）の検討にあたって、どの項目を重視すべきと思いますか？

次のA～Eの項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。 また、各項目の中で特に優先すべき項目1つに✓をつけてください。	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらともいえない	あまり重視する必要はない	重視する必要はない	優先項目
A 道北地域から新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への輸送時間短縮	1	2	3	4	5	
B 道北地域から名寄市の高次医療施設への救急搬送時間短縮	1	2	3	4	5	
C トンネルや橋梁等の道路の幅が狭い区間、事故危険区間の解消	1	2	3	4	5	
D 地吹雪区間や天塩川氾濫による洪水浸水区間の解消	1	2	3	4	5	
E 災害発生時の避難・復旧を支える代替路の確保	1	2	3	4	5	

▼重視すべき項目



▼優先すべき項目



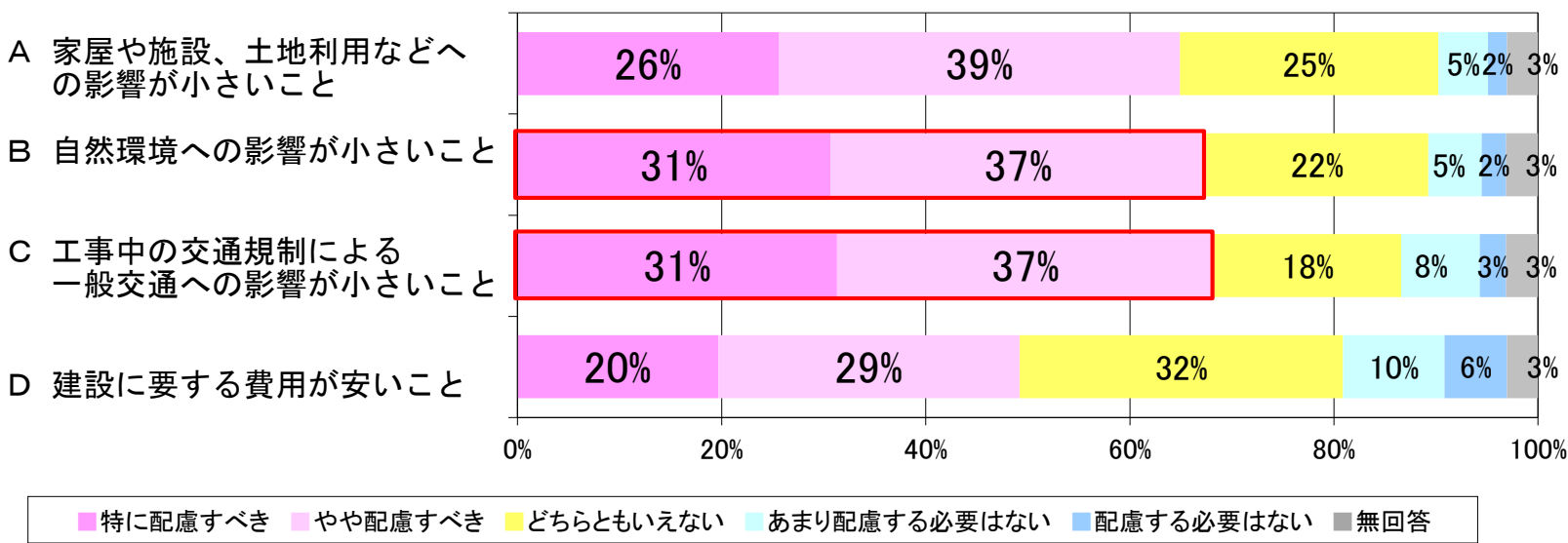
2-6) 第2回地域意見聴取の結果 アンケート調査(対策案比較時に配慮すべき事項)

○対策案選定時に配慮すべき項目は、「自然環境への影響が小さいこと」、「工事中の交通規制による一般交通への影響が小さいこと」について配慮すべきとの意見が約7割。
○対策案選定時に優先すべき項目は、「工事中の交通規制による一般交通への影響が小さいこと」、「自然環境への影響が小さいこと」の順となっている。

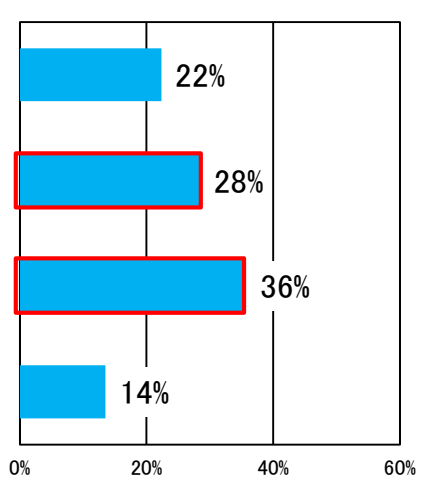
問2 対策案（ルート帯案）の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

次のA～Dの項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。 また、各項目の中で特に優先すべき項目1つに✓をつけてください。	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない	優先項目
A 家屋や土地利用など地域への影響が小さいこと	1	2	3	4	5	
B 自然環境への影響が小さいこと	1	2	3	4	5	
C 工事中の交通規制による一般交通への影響が小さいこと	1	2	3	4	5	
D 建設に要する費用が安いこと	1	2	3	4	5	

▼配慮すべき項目



▼優先すべき項目



注:「配慮すべき」は、「特に配慮すべき」と「やや配慮すべき」を選択した合計の割合で記載。 総回答者数N=7,133 総回答者数N=4,023

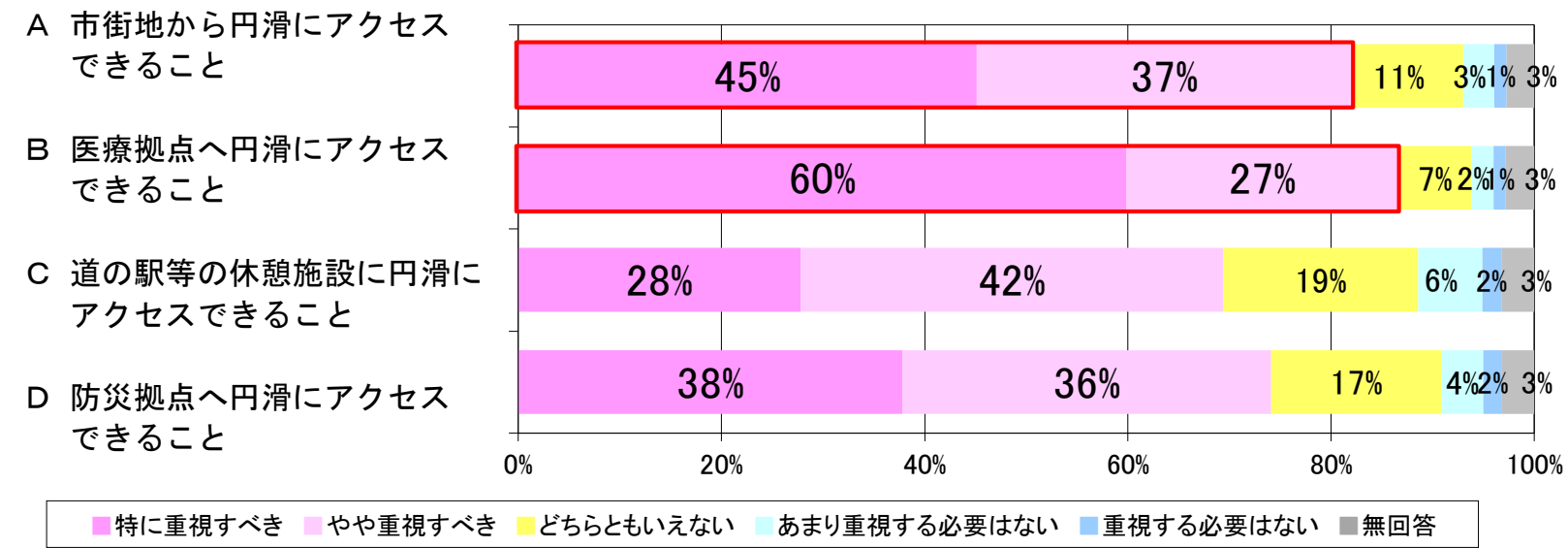
2-7) 第2回地域意見聴取の結果 アンケート調査(インターチェンジで重視すべき事項)

○インターチェンジで重視すべき項目は、「市街地から円滑にアクセスできること」、「医療拠点へ円滑にアクセスできること」について重視すべきとの意見が8割以上と多い。
○対策案選定時に優先すべき項目は、「医療拠点へ円滑にアクセスできること」、「市街地から円滑にアクセスできること」の順となっている。

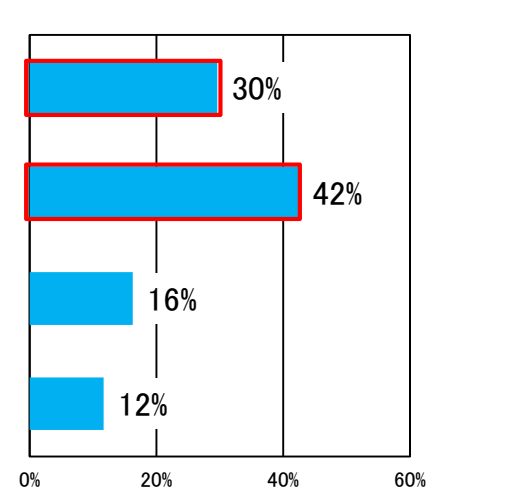
問3 インターチェンジとのアクセスを検討するにあたって、どのようなことを重視すべきと思いますか？

次のA～Dの項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。 また、各項目の中で特に優先すべき項目1つに✓をつけてください。	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらともいえない	あまり重視する必要はない	重視する必要はない	優先項目
A 市街地から円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5	
B 医療拠点へ円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5	
C 道の駅等の休憩施設に円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5	
D 防災拠点へ円滑にアクセスできること	1	2	3	4	5	

▼重視すべき項目



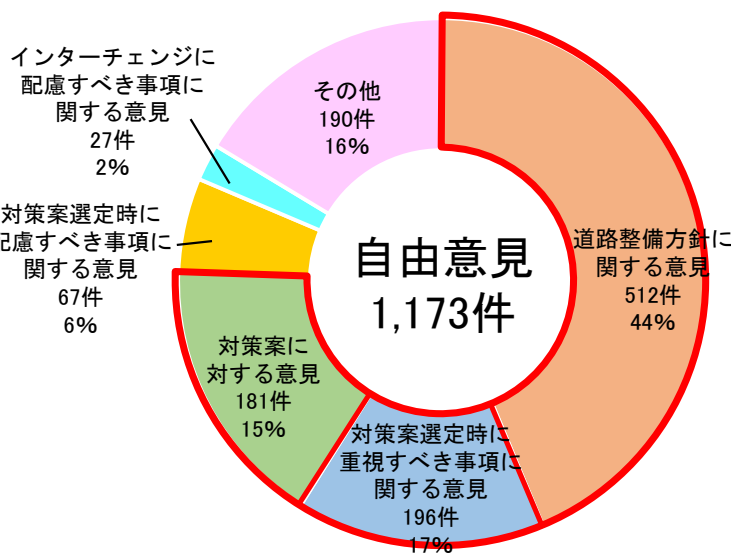
▼優先すべき項目



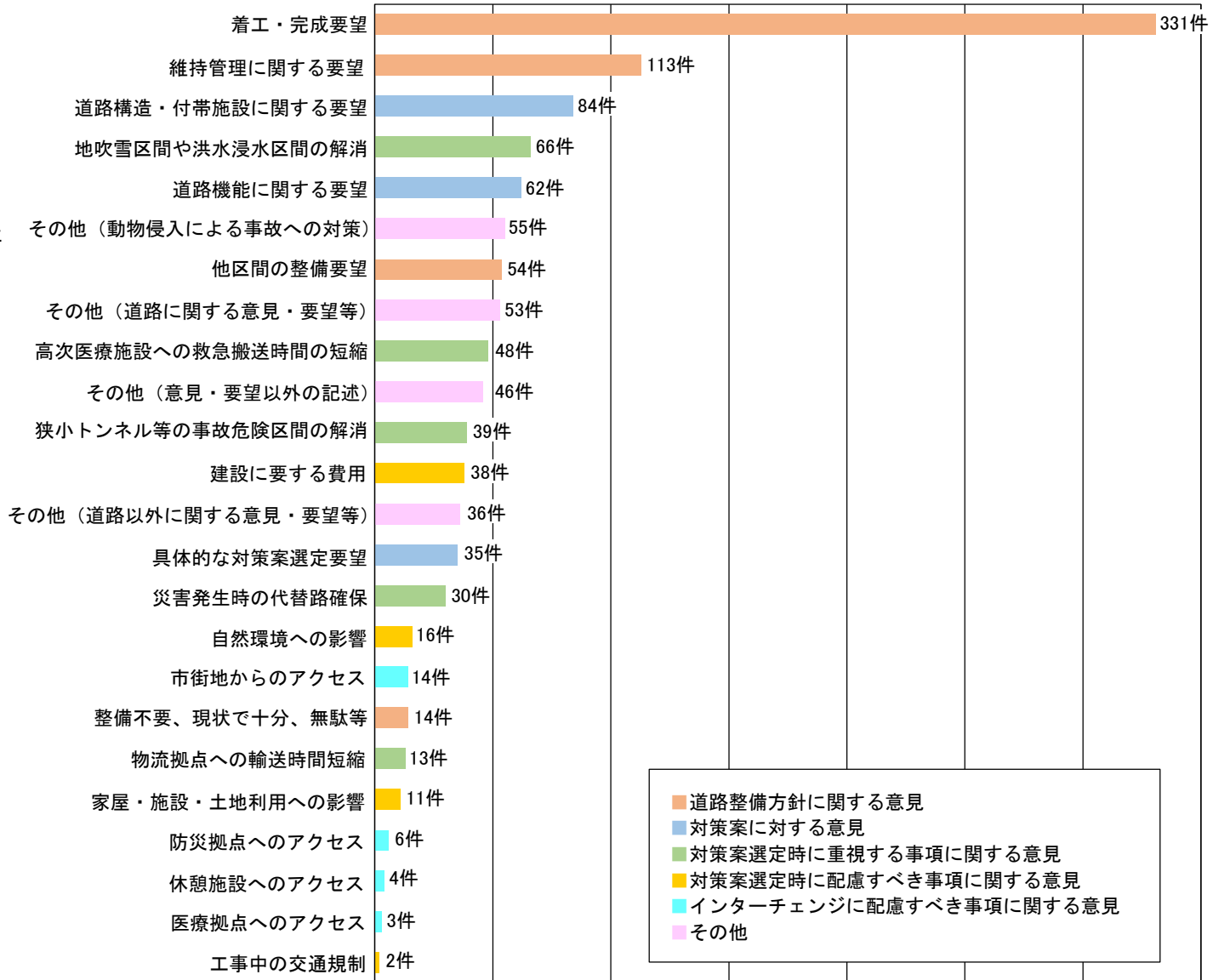
2-8) 第2回地域意見聴取の結果 アンケート調査(自由意見 その①)

○自由意見の記述では、「道路整備方針に関する意見」が約4割、「対策案選定時に重視する事項に関する意見」、「対策案に対する意見」が約2割寄せられた。

▼自由意見の内容内訳



▼分類別意見数



道路整備方針に関する意見

対策案に対する意見

対策案選定時に重視する事項に関する意見

対策案選定時に配慮すべき事項に関する意見

インターチェンジに配慮すべき事項に関する意見

その他

2-9) 第2回地域意見聴取の結果 アンケート調査(自由意見 その②)

○道路整備方針に関する意見では、「着工・完成要望」についての意見が多く寄せられた。
○対策案に関する意見では、「道路構造・付帯施設に関する要望」についての意見が多く寄せられた。

▼主な意見(道路整備方針に関する意見ほか)

分類		主な意見
道路整備方針に関する意見	着工・完成要望(331件)	<ul style="list-style-type: none">・観光資源が各地にあっても、道路整備がしっかりされていないと安心して暮らすことができないので、長距離区間を少しでも時間短縮できる<u>安全な道路を作っていただきたい</u>です。(稚内市/30代男性)・命に関わる救急搬送が少しでも安全に速く行われるように<u>道路整備が進むことを願っています</u>。(稚内市/40代女性)・北海道の広大な土地で暮らす私たちが安心して生活するために安全安心な道路は不可欠な存在であるため、人命にかかわる医療や防災の観点から<u>自動車専用道路を整備していただきたい</u>。(稚内市/40代男性)・国が掲げている地方創生は生活の基盤となるインフラ整備が未熟であれば成り立たないため、<u>早く縦貫道が一本道で繋がることを期待</u>いたします。(中川町/50代男性)
	他区間の整備要望(54件)	<ul style="list-style-type: none">・<u>名寄ICから土別剣淵IC</u>までの工事を早く進めてほしい。(稚内市/60代女性)・<u>豊富北～稚内、天塩～幌延、美深北～音威子府</u>も早期開通を願います。(稚内市/70代男性)
	維持管理に関する要望(113件)	<ul style="list-style-type: none">・整備後には<u>適切な維持管理</u>をお願いしたい。(稚内市/60代男性)・冬期の悪天候時における<u>除雪体制の確保</u>を最も重視してほしい。(稚内市/70代男性)・<u>道路際の草木を伐採</u>し見通しよくしてくれると助かります。(稚内市/40代男性)・<u>道路が削られて凹んでる部分</u>があったりするので直してほしいです。(中川町/10代女性)
	整備不要、現状で十分、無駄等(14件)	<ul style="list-style-type: none">・多額の建設費用をかけて、道路が完成してもそれ程<u>便利になるとは考えられない</u>。(豊富町/60代男性)・道路整備により、<u>地域の若者が流出し地域の過疎化が進行</u>することが心配。(豊富町/40代男性)
対策案に対する意見	道路構造・付帯施設に関する要望(84件)	<ul style="list-style-type: none">・<u>追越車線の増設</u>を強く希望する。(稚内市/40代男性)・<u>中央分離帯を設置</u>して、冬期間でも安心して走行できるようにしてほしい。(稚内市/50代男性)・<u>動物の侵入による衝突事故の抑制</u>を図られるモデル的な道路設計としなければいけない。(天塩町/50代男性)
	道路機能に関する要望(62件)	<ul style="list-style-type: none">・<u>時間短縮できるルート</u>は運送、レジャー、医療にも大切だと思うので強く優先したいです。(稚内市/30代男性)・冬期でも<u>安全安心に走行</u>するために、北海道縦貫自動車道の整備を促進してほしい。また、<u>救急搬送は1分1秒を争うため、時間短縮効果が高い高速道路の整備</u>にしてほしい。(稚内市/40代女性)
	具体的な対策案選定要望(35件)	<ul style="list-style-type: none">・安全面、安定性、費用、救急搬送や輸送時の速達性をトータルで見た時に、<u>案①</u>が最適。(稚内市/20代女性)・建設されるルートの土地所有者への配慮もある程度必要であるため、<u>案②</u>が1番良い。(稚内市/40代 性別不明)・対策案を選択する質問があった方がいい。別線整備をすると維持・点検費用が2重でかかるため、<u>案③</u>を望む。(豊富町/50代女性)

2-10) 第2回地域意見聴取の結果 アンケート調査(自由意見 その③)

- 対策案検討時に重視すべき事項では、「地吹雪区間や洪水浸水区間の解消」についての意見が多く寄せられた。
- 対策案比較時に配慮すべき事項では、「建設に要する費用」についての意見が多く寄せられた。
- インターチェンジに配慮すべき事項では、「市街地からのアクセス」についての意見が多く寄せられた。

▼主な意見(対策案検討時に重視すべき事項に関する意見ほか)

分類		主な意見
対策案検討時に重視すべき事項に関する意見	物流拠点への輸送時間短縮(13件)	・ <u>物流の円滑化</u> のために、早急に整備を進めてほしい。(稚内市/40代男性)
	高次医療施設への救急搬送時間の短縮(48件)	・2年前、母が大動脈解離で倒れ、4時間かけて旭川の病院まで搬送されました。ひとりでも多くの命が助かるよう、 <u>医療機関への迅速な搬送が可能となる道路整備</u> を一刻も早くお願いしたいと思っています。(稚内市/30代男性) ・どうか早く完成させて下さい。 <u>陸路での母体搬送は非常に疲労</u> します。(稚内市/40代男性)
	狭小トンネル等の事故危険区間の解消(39件)	・国道の道路幅が狭く、特に冬は <u>大型車とのすれ違いに恐怖</u> を感じる。(稚内市/50代 性別不明)
	地吹雪区間や洪水浸水区間の解消(66件)	・ <u>冬の地吹雪がひどい</u> ので、とにかく解消してほしい。(豊富町/20代女性) ・ <u>吹雪による交通事故が減少し、天塩川氾濫にも対応できる</u> ルート選定を特に重視してほしい。(豊富町/60代男性)
	災害発生時の代替路確保(30件)	・吹雪などで通行止めが発生すると、 <u>大きな迂回が必要となったり、陸の孤島になってしまう</u> ため、災害に強い道路整備を求めます。(稚内市/40代男性)
対策案比較時に配慮すべき事項に関する意見	家屋・施設・土地利用への影響(11件)	・農地利用、特に <u>放牧地を分断しないように配慮</u> してほしい。(中川町/40代 性別不明)
	自然環境への影響(16件)	・河川環境やそこに生息する <u>魚類、動植物に影響を及ぼさないような配慮</u> を強く望みます。(稚内市/50代男性)
	工事中の交通規制(2件)	・工事中の <u>現道交通の影響を最小限</u> にしてほしい。(稚内市/60代男性)
	建設に要する費用(38件)	・建設費の高騰で、必ず <u>費用が想定よりも嵩むと考えられる</u> ので、最安値での工事を望む。(稚内市/20代男性) ・建設費用よりも、 <u>道路利用の利便性・安全性や地域の維持・発展を優先</u> した整備計画をお願いします。(稚内市/40代男性)
インターチェンジに配慮すべき事項に関する意見	市街地からのアクセス(14件)	・ <u>市街地へのアクセスを確保</u> することで災害時や緊急時に迅速な対応が可能になると思います。(中川町/40代男性)
	医療拠点へのアクセス(3件)	・ <u>医療機関の相互アクセス</u> を円滑に進めることができるような道路整備を期待します。(稚内市/50代男性)
	休憩施設へのアクセス(4件)	・パーキングエリアが整備されない場合は、 <u>道の駅へのアクセスを確保</u> してほしい。(豊富町/50代男性)
	防災拠点へのアクセス(6件)	・吹雪発生時は、 <u>道路利用者の避難場所確保</u> が大事だと思います。(稚内市/60代女性)
その他	動物侵入による事故への対策(55件)	・ <u>野生動物の進入</u> など危険を回避できる設計にしてほしい。(中川町/50代 性別不明) ・ <u>鹿やキツネなど動物と接触しない道路</u> の整備を望みます。(稚内市/40代男性)

2-11) 第2回地域意見聴取の実施状況(ヒアリング調査)

○沿線自治体・関係団体に対して、対策案の検討にあたって重視すべき事項、対策案の比較にあたって配慮すべき事項、インターチェンジとのアクセスを検討するにあたって重視すべき事項について、ヒアリング調査を実施。

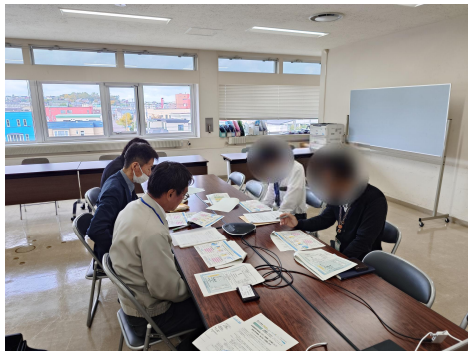
■意見聴取内容

- 問1 対策案(ルート帯案)の検討にあたって、どの項目を重視すべきか
- 問2 対策案(ルート帯案)の比較にあたって、どのようなことに配慮し計画すべきか
- 問3 インターチェンジとのアクセスを検討するにあたって、どのようなことを重視すべきか
- 問4 その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備の意見等について(自由意見)

■実施状況

調査対象			実施数
沿線自治体			8箇所
関係団体	産業団体	商工会議所・商工会	6箇所※
		農水産業関連	12箇所
		物流事業者	10箇所
		バス・レンタカー・観光・ 空港関連	16箇所
	医療・消防	消防	5箇所
		病院	5箇所
	移住者（地域おこし協力隊等）		5箇所
合計			67箇所

※女性部を含む



沿線自治体



商工会



農業協同組合



物流事業者



病院



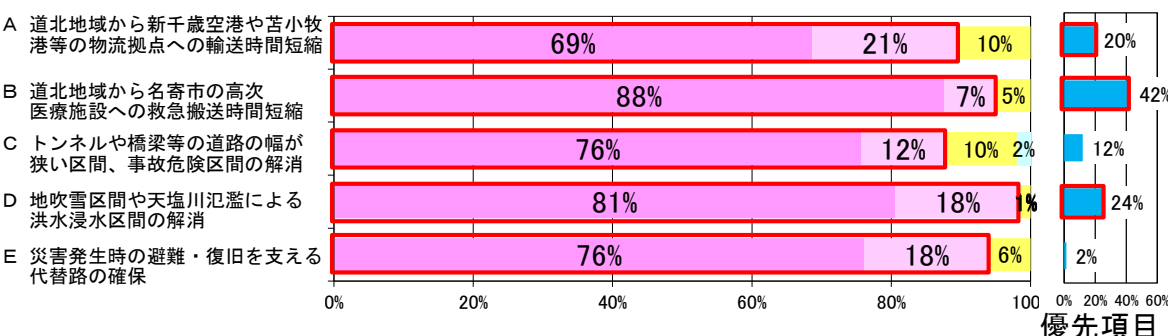
移住者

2-12) 第2回地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(対策案検討時に重視すべき事項)

○対策案選定時に重視すべき項目は、すべての項目について重視すべきとの意見が8割以上と多い。
○対策案選定時に優先すべき項目は、約4割が「道北地域から名寄市の高次医療施設への救急搬送時間短縮」を優先すべき項目と回答しており、続いて「地吹雪区間や天塩川氾濫による洪水浸水区間の解消」、「道北地域から新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への輸送時間短縮」の順となっている。

▼対策案検討時に重視すべき項目

- 問1 対策案(ルート帯案)の検討にあたって、どの項目を重視すべきと思いますか？
- A 道北地域から新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への輸送時間短縮
 - B 道北地域から名寄市の高次医療施設への救急搬送時間短縮
 - C トンネルや橋梁等の道路の幅が狭い区間、事故危険区間の解消
 - D 地吹雪区間や天塩川氾濫による洪水浸水区間の解消
 - E 災害発生時の避難・復旧を支える代替路の確保



▼選択した項目を重視すべきだと思う理由

項目	主な意見
A 道北地域から新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への輸送時間短縮	<ul style="list-style-type: none">・物流2024年問題で労働時間の制約が厳しい中であるため、<u>道路整備によって1分でも労働時間が短くなることが望まれる</u>。また、<u>時間短縮が図られることで燃油コストの削減</u>などの効果も期待出来る。(物流事業者)・農業機械の大型化により農業生産の効率化が進んでいるが、物流事業者の輸送体制が追いついておらず、<u>輸送時間短縮による物流の効率化</u>を望む。(農業協同組合)・<u>生鮮品の鮮度保持が輸送時の重要な課題</u>であるため、国道40号 中川－天塩間の高規格化による輸送時間短縮は水産業界の発展に必要である。(漁業協同組合)
B 道北地域から名寄市の高次医療施設への救急搬送時間短縮	<ul style="list-style-type: none">・<u>名寄市への救急搬送の多くが重症患者</u>であるため少しでも早く搬送する必要がある、<u>1分1秒でも救急搬送時間を短縮</u>できる道路の整備を望む。救急車に搭載している酸素ボンベの本数や容量には限りがあるため、<u>救急車内での医療措置の観点からも搬送時間の短縮</u>が必要。(消防)・陸路での<u>長距離搬送中に状態が悪化したり、亡くなる可能性</u>が十分高く、<u>可及的速やかな搬送ができるよう道路を整備</u>する必要がある。(病院)
C トンネルや橋梁等の道路の幅が狭い区間、事故危険区間の解消	<ul style="list-style-type: none">・当区間では<u>路外逸脱事故が発生</u>しており、大型車の事故は重大事故につながるリスクも高いことから、<u>安全に走行できる道路環境の整備</u>が必要。(物流事業者)・約40年前に同級生が<u>雄信内トンネル坑口での冬期交通事故</u>で亡くなったほか、別の知人が事故を起こしたこともある。<u>多くの住民が危険性を認識</u>している区間であり、常に慎重に運転をしていることから、早期の改善を望む。(商工会 女性部)
D 地吹雪区間や天塩川氾濫による洪水浸水区間の解消	<ul style="list-style-type: none">・冬期の視程障害発生時は、<u>救急車も速度を落として走行</u>するため救急搬送の速達性に対する影響が大きく、<u>冬期悪天候でも走行しやすい道路</u>の整備を望む。(消防)・町内の国府地区では<u>頻繁に地吹雪が発生</u>しているほか、菅、大富、国府地区は<u>地盤が低く浸水しやすい土地</u>であることから、そのような<u>危険性を回避</u>できるような道路構造が望ましいと考える。(自治体)
E 災害発生時の避難・復旧を支える代替路の確保	<ul style="list-style-type: none">・災害時には、<u>西天北5町の災害協定</u>に基づき相互間での迅速な連携・救援・復旧が必要となることから、<u>確実に走行可能な代替路の確保</u>が重要である。大規模な災害の際には、<u>道央方面からの救援物資や人員が迅速な復旧に必要不可欠</u>であることから、広域道路ネットワークにおける代替路確保も非常に重要であると考えている。(自治体)・道や各自治体と<u>災害時の連携等に関する協定</u>を結んでおり、災害発生時には支援物資の管理・保管・輸送を担う可能性が高く、<u>被災地にとって必要な支援を確実に</u>行うためには<u>代替路の確保は重要</u>であると考えている。(物流事業者)

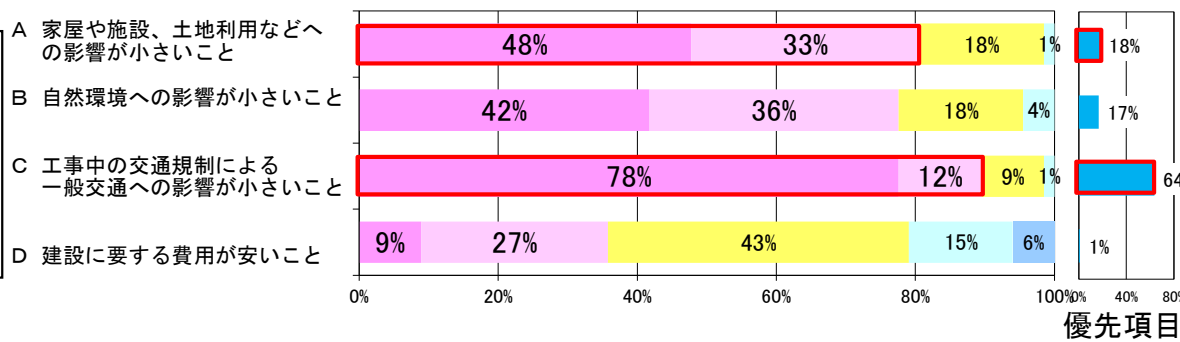
2-13) 第2回地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(対策案比較時に配慮すべき事項)

○対策案選定時に配慮すべき項目は、「家屋や土地利用など地域への影響が小さいこと」、「工事中の交通規制による一般交通への影響が小さいこと」について配慮すべきとの意見が8割以上と多い。
○対策案選定時に優先すべき項目は、「工事中の交通規制による一般交通への影響が小さいこと」、「家屋や土地利用など地域への影響が小さいこと」の順となっている。

▼対策案比較時に配慮すべき項目

問2 対策案(ルート帯案)の比較にあたって、
どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

A 家屋や土地利用など地域への影響が小さいこと
B 自然環境への影響が小さいこと
C 工事中の交通規制による一般交通への影響が小さいこと
D 建設に要する費用が安いこと



▼選択した項目を配慮すべきと思う理由

項目	主な意見
A 家屋や土地利用など地域への影響が小さいこと	<ul style="list-style-type: none">・元々農業を営んでいた方や町外から新規就農で来られて酪農をされている方がいる中で、地域の基幹産業である農畜産業に関わる畑や放牧地が今回の道路整備でなるべく分断されないような配慮が必要であるとする。(自治体)・農家は何年も先を見据えて農地の更新・整備などを行っているため、影響が出ないように農地は避けていただきたい。(農業協同組合)
B 自然環境への影響が小さいこと	<ul style="list-style-type: none">・天塩川でしじみ漁を行っているため、天塩川の河川環境に影響が生じないことを望む。(漁業協同組合)・人命救助のために救急搬送を速達化可能な道路整備をした結果、自然環境に影響がでることは仕方のないことだと考える。(病院)・少なからず環境への影響はあると考えるため、影響の程度などが公表されることや、中川町の「化石」に代表されるような地域の観光資源にも配慮が必要。(移住者)
C 工事中の交通規制による一般交通への影響が小さいこと	<ul style="list-style-type: none">・片側交互通行や仮道への迂回が多く発生すると、道路交通の安全性や物流の遅延による地域の商工業への影響が大きくなるため、工事中の交通規制は小さいことを望む。(商工会)・迂回路の少ない当該路線において通行止め等の規制が行われると、著しく輸送に影響を及ぼす。特に、農産品の輸送繁忙期である秋期に工事が行われることが多く、物流に与える影響が大きい。(トラック協会)
D 建設に要する費用が安いこと	<ul style="list-style-type: none">・建設費用は極力抑えられることが望ましいが、道路機能を度外視してまでコストカットすることは望まない。強靱な道路整備を最優先に考えてほしい。(漁業協同組合)・最新の工法を活用することで建設費をなるべく抑えつつも、安心安全に通行できる道路を整備できるよう工夫願いたい。(観光機構)・費用が安いことは大切なことであるが、道北地域の産業や命を守るためには、財源を地方へ投入すべき。(商工会)

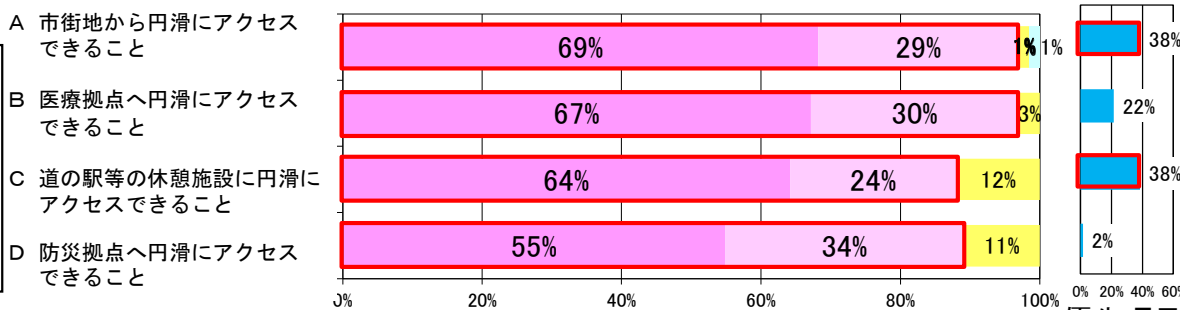
2-14) 第2回地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(インターチェンジで重視すべき事項)

○インターチェンジで重視すべき項目は、すべての項目について重視すべきとの意見が8割以上と多い。
○インターチェンジとのアクセスの検討にあたって優先すべき項目は、「市街地から円滑にアクセスできること」、「道の駅等の休憩施設に円滑にアクセスできること」の順となっている。

▼インターチェンジとのアクセスの検討にあたって重視すべき事項

問3 インターチェンジとのアクセスを検討するにあたって、
どのようなことに重視すべきと思いますか？

A 市街地から円滑にアクセスできること
B 医療拠点へ円滑にアクセスできること
C 道の駅等の休憩施設に円滑にアクセスできること
D 防災拠点へ円滑にアクセスできること



▼選択した項目を重視すべきと思う理由

項目	主な意見
A 市街地から円滑にアクセスできること	<ul style="list-style-type: none">・問寒別地区を酪農の生産空間として維持するために、住民の利便性確保および生乳や牧草ロールの輸送効率化の観点から、問寒別地区の市街地からのアクセス性に配慮したインターチェンジが必要と考えている。(自治体)・天塩高校への通学バスは、中川町や幌延町問寒別地区を発着するため、高規格道路と各市街地のアクセス向上が生徒の通学の利便性向上に大きく寄与する。(自治体)・当該道路が開通すると、利用者が沿線市街地を素通りしてしまう可能性があり地元の商工業者にとっては大きな損失となってしまう。沿線自治体にある飲食店を目的に訪れる方もいるため、沿線自治体に立ち寄ってもらえるような道路整備計画にしていきたい。(商工会)・職員が用務で問寒別支所へ行くことが多いことから、特に天候の悪い冬期など、安全な移動手段として高規格道路を利用できると非常に助かる。(移住者)
B 医療拠点へ円滑にアクセスできること	<ul style="list-style-type: none">・中川町内の医療施設が集積する地区や雄信内、問寒別などの市街地から患者が搬送されることがあり、各地区の診療所から円滑にアクセスすることで医療機関間の迅速な搬送にも有益である。(病院)・市街地にある町立病院から名寄市の高次医療施設へ転院搬送される機会もあるため、町内の医療拠点へのアクセス性は重要な観点だと考える。(自治体)・ドクターカーのドッキングポイントである道の駅ながわに対する高規格道路からのアクセスや、ドッキング後にもう一度高規格道路を利用するための道の駅から高規格道路へのアクセス確保が重要。(消防)・多くの救急搬送が名寄市などの町外へ向かうことを考慮すると、医療拠点へのアクセスが向上することで安心して天塩町に暮らすことができる。(商工会女性部)
C 道の駅等の休憩施設に円滑にアクセスできること	<ul style="list-style-type: none">・労務管理上必要な休憩時間の確保や吹雪発生時の待機場所として道の駅等の休憩施設を利用するため、休憩施設へのアクセスは重要。(物流事業者)・道の駅はドライブ観光客の休憩だけでなく、地域を知る旅行の楽しみも提供してくれる施設のため、観光客や地域の観光振興のためにも配慮は必要。(観光協会)・お客様の休憩やドライバーの交代を行う施設として、道の駅等の休憩施設を活用しており、インターチェンジのすぐ近くに休憩施設があることを望む。(バス事業者)
D 防災拠点へ円滑にアクセスできること	<ul style="list-style-type: none">・災害時は問寒別地区に避難所が設けられることになるため、スムーズな支援を図るためにも、インターチェンジのアクセス確保は重要。(自治体)・雄信内地区で河川氾濫による洪水浸水が発生した際には、雄信内地区の防災拠点施設が大きな役割を果たすため、災害時の物資輸送ルートとなる高規格道路とのアクセスを確保していただきたい。(自治体)・災害時には道の駅等を活用して防災拠点となるベースキャンプを設営して救援活動を行うため、このような防災拠点へのアクセスは重要である。(消防)

2-15) 第2回地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(その他配慮すべき項目や意見)

○その他配慮すべき項目や意見として、生活、観光、エネルギー産業等の観点から様々な意見が寄せられた。

問4 その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等がありましたらご自由にお書きください。

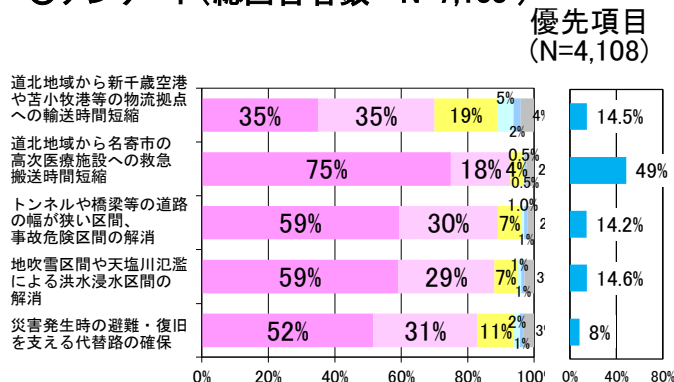
分類	主な意見
その他配慮すべき事項に関する意見	<ul style="list-style-type: none">旭川、新千歳方面からの観光においては、稚内方面の移動に時間がかかってしまうため、当町のサロベツ湿原などの観光地へ立ち寄ることができない。少しでも時間が短縮され、<u>観光客への移動の負担が少なくなることが当町の観光振興への寄与になると考える</u>。(自治体)西天北5町(天塩町、幌延町、豊富町、遠別町、中川町)を持続させるためには、唯一の高校である天塩高校の維持が重要と考えており、路線バス等の公共交通機関が運行されていない中川町や幌延町間寒別地区等からの通学バスを運行している。通学バスは、雄信内トンネル等の事故危険区間を走行せざるを得ない状況であるため、<u>高規格道路の整備による通学経路の安全性確保</u>は重要課題である。(自治体)宗谷地域は大規模風車群や世界最大級の蓄電池施設などを有する<u>再生可能エネルギーの生産拠点</u>であり、<u>新電力会社の設立(令和6年2月)やデータセンター誘致など再生エネルギーの地産地消</u>の取組みも進行している。北海道縦貫自動車道の整備と合わせ、これらを地域資源と捉え広くPRすることで、観光、視察旅行など交流人口の拡大が期待される。(商工会議所)サイクリストの特徴として、往路と復路で別の道を通りたいと考える方が多いため、オロロンラインと国道40号の両方をサイクルルートとしてお勧めしたいと考えている。北海道縦貫自動車道の整備により、大型車が別線の自動車専用道路区間を利用できるようになることで、<u>一般国道における自転車利用環境の整備・向上</u>を期待している。(観光連盟)当空港が気象条件で欠航となった場合、代替の空港までは距離があるため、旅行会社は道北地域のツアーを組みにくいと聞いたことがある。<u>縦貫道の整備により空港間の移動の利便性</u>が向上すれば、旅行会社も安心して道北地域のツアーを売り出すことができる。(空港)道北地域は<u>シカ等の野生動物との接触事故</u>が非常に多いが、最新のトラックは車体前方に重要なセンサー類が搭載されており、トラックの損傷による被害額が高額となってしまうことから、野生動物が侵入しない道路構造を望む。野生動物との衝突によるトラックの修理費は、1回の事故で100万円以上となってしまうため、規模の小さい<u>輸送業者においては経営に対する影響も少なくない</u>。(物流事業者)
今後の道路整備に関する意見	<ul style="list-style-type: none">現状、各物流事業者の努力により2024年問題による影響は表面化していないが、時間外労働の上限規制は年間単位でも定められているため、年度末に実際に物を運べなくなるなどの影響が表面化する可能性があると考えている。ただ、輸送量の季節変動が大きい農水産品の輸送において2024年問題の影響が早期に表面化する可能性もあり、<u>物流拠点間の輸送時間短縮や休憩施設設置の適正化</u>に対するニーズは近年高まっている。(トラック協会)インバウンド観光客の誘致においては、アドベンチャートラベルを切り口に欧米豪からの観光客をターゲットとしたプロモーションを積極的に行っている。アジアからの観光客に比べて欧米豪からの観光客は宿泊数が多いため、道内をより広域に周遊いただけると考えており、他地域に比べて公共交通網が脆弱な北海道内においては、<u>高規格道路ネットワーク整備の重要度</u>が増している。特に、国立公園の観光資源として利活用が進められており、<u>利尻礼文サロベツ国立公園</u>を有する道北地域のポテンシャルは非常に高く、<u>北海道縦貫自動車道の整備によるアクセス向上</u>を望む。(観光機構)当消防管轄内の医療機関から名寄市・旭川市の医療機関に転院搬送される患者は、脳疾患・心疾患等の重症患者が多い。<u>搬送中の道路路面の凹凸による振動</u>は患者の予後に影響するため、救急搬送時に走行する道路路面の<u>凹凸ができる限り補修整備</u>されることを望んでいる。(消防)

2-16) 第2回地域意見聴取(アンケート・ヒアリング)結果のまとめ

○第2回意見聴取の結果、対策案(ルート帯案)の検討・比較にあたって、重視・配慮すべき事項等について確認。
また、対策方針(案)の検討にあたって、インターチェンジで重視すべき事項について確認。
○各質問の項目の中で優先すべきもの1つについて確認。

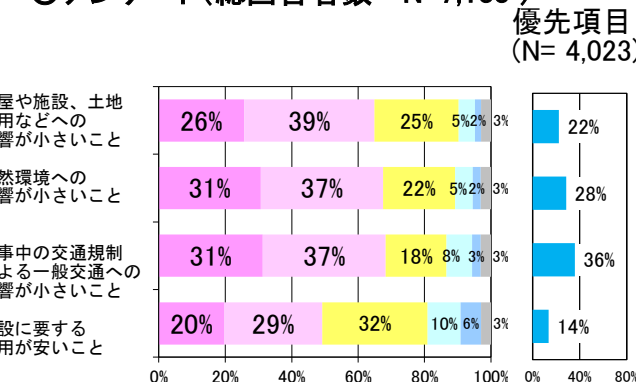
▼対策案検討時に重視すべき事項

○アンケート(総回答者数 N=7,133)



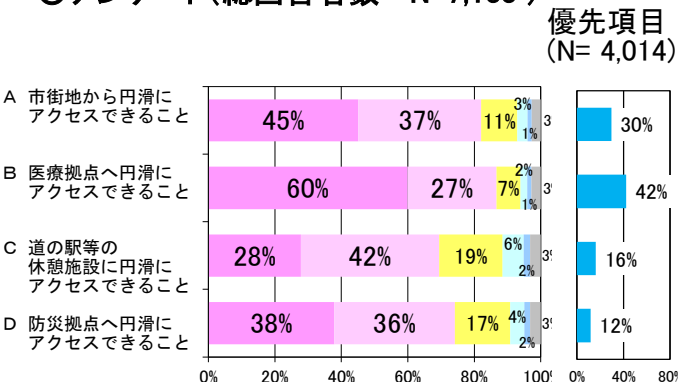
▼対策案比較時に配慮すべき事項

○アンケート(総回答者数 N=7,133)

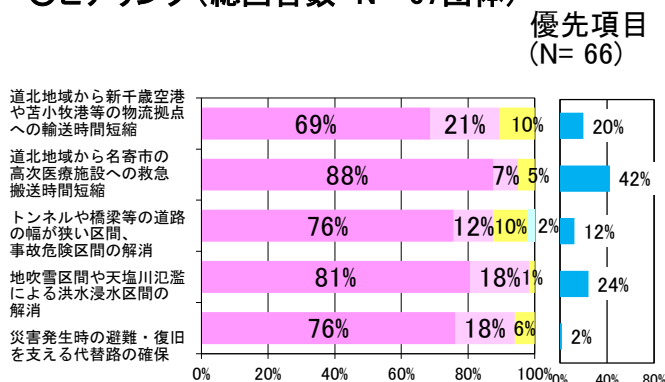


▼インターチェンジで重視すべき事項

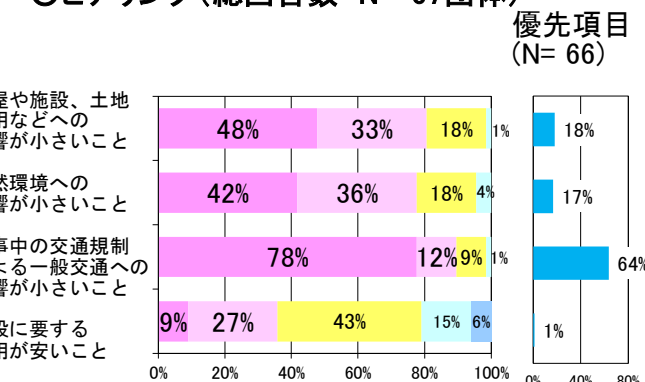
○アンケート(総回答者数 N=7,133)



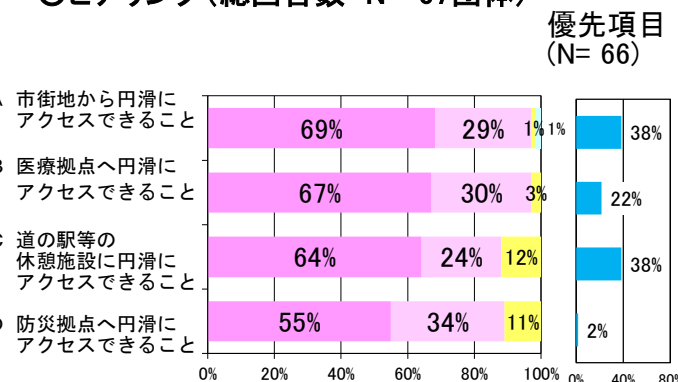
○ヒアリング(総回答数 N=67団体)



○ヒアリング(総回答数 N=67団体)



○ヒアリング(総回答数 N=67団体)



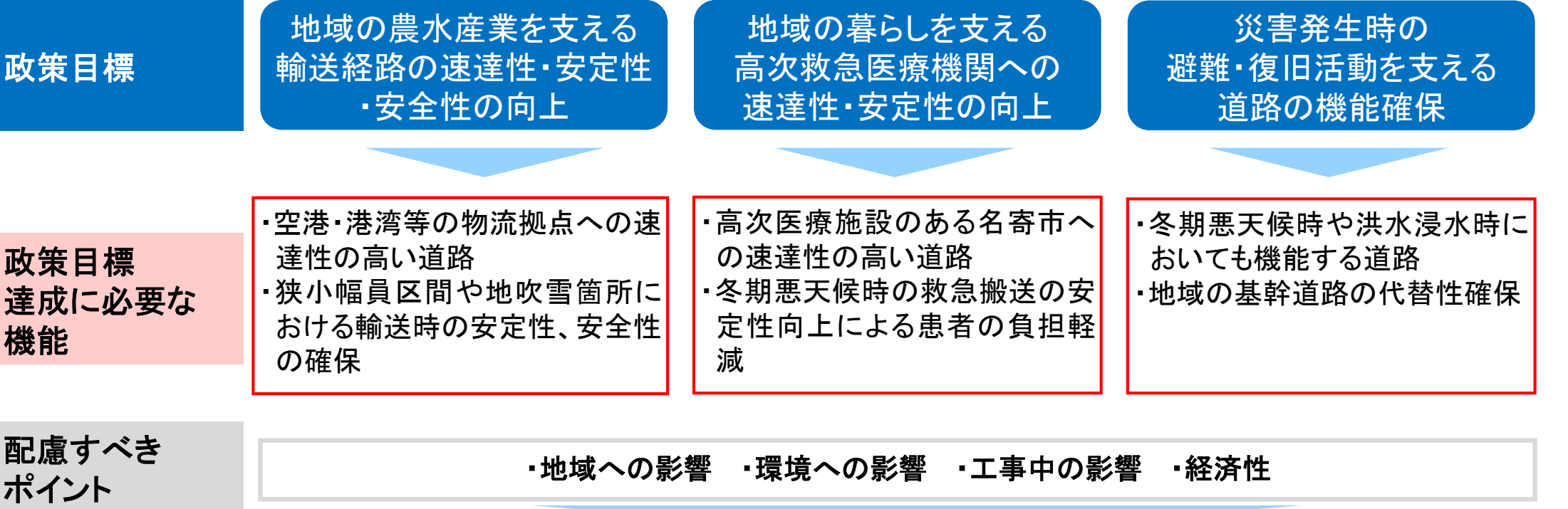
■特に重視・配慮すべき ■やや重視・配慮すべき ■どちらともいえない ■あまり重視・配慮する必要はない ■重視・配慮する必要はない ■無回答

アンケート、ヒアリング結果から路線の対応方針案及びインターチェンジ位置について検討

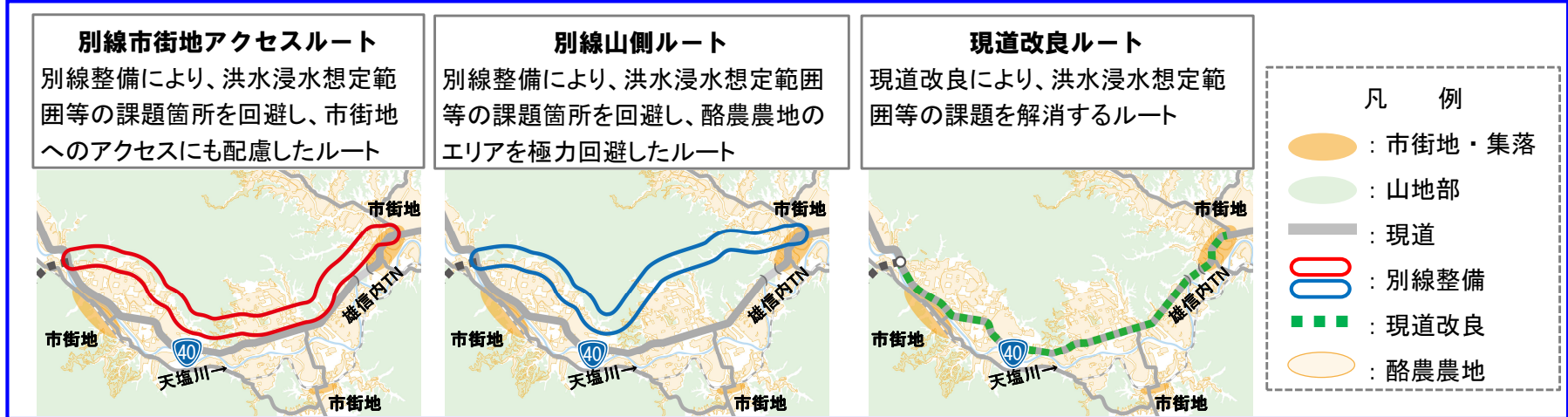
3. 対応方針（原案）の検討

3-1) 路線対策案の考え方

○第2回地方小委員会までに、中川～天塩間における政策目標の達成に必要な機能と配慮すべき事項を踏まえ、以下のような3つの対策案を設定。

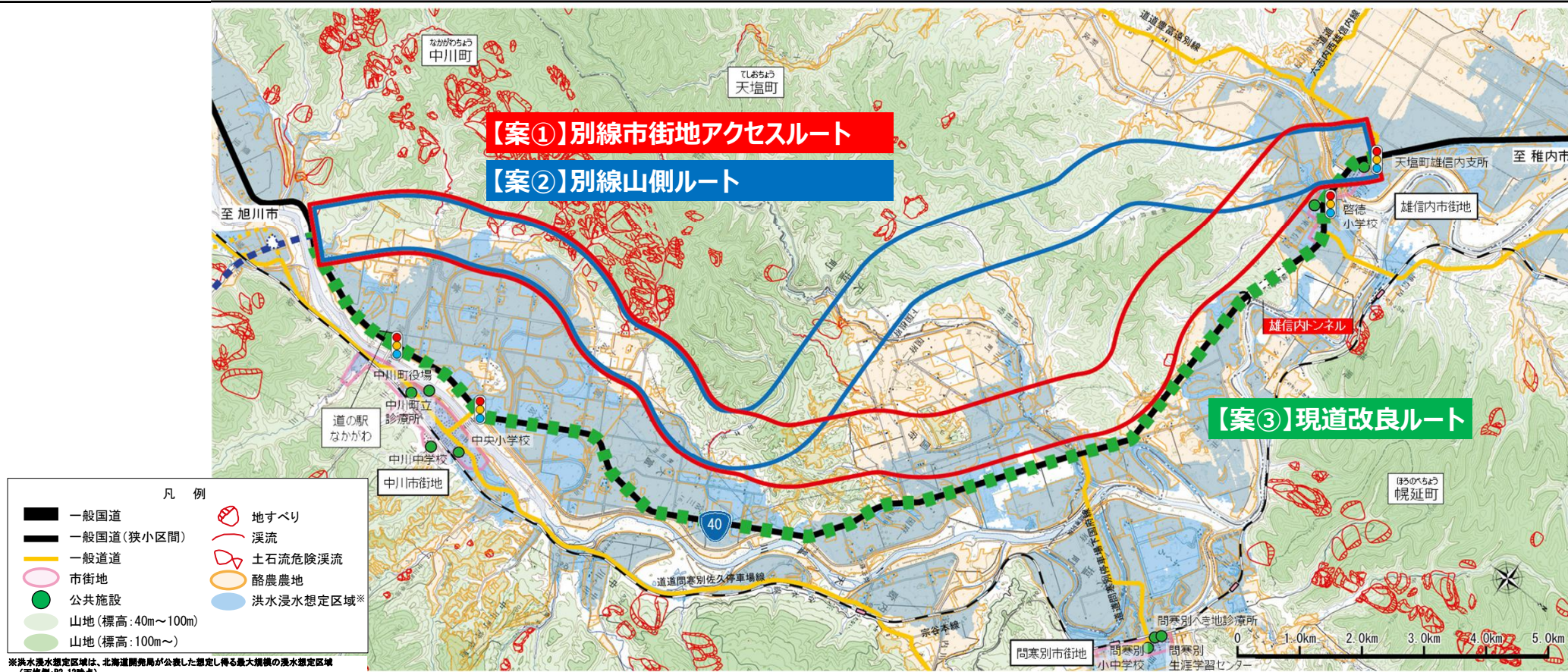


3つの対策案と整備イメージ



3-2) 対策案の概要

○コントロールポイントを踏まえ、政策目標達成に必要な機能から3つの対策案を設定。



- 案① 別線市街地アクセスルート**
(別線整備により、洪水浸水想定範囲等の課題箇所を回避しつつ、市街地へのアクセスにも配慮したルート)

➡

 - ・全線別線で自動車専用道路を整備するため、サービス速度は確保しやすい。
 - ・ルート帯が現国道や市街地から近傍で、アクセス性や大規模災害時の代替性は確保される。
 - ・事業費は対策案の中で中位。
- 案② 別線山側ルート**
(別線整備により、洪水浸水想定範囲等の課題箇所を回避しつつ、酪農農地を極力回避するルート)

➡

 - ・全線別線で自動車専用道路を整備するため、サービス速度は確保しやすいが、酪農農地を極力回避することで、案①よりも延長が長くなり時間短縮効果は劣る。
 - ・大規模災害時の代替性は確保される。
 - ・事業費は対策案の中で高価。
- 案③ 現道改良ルート**
(現道改良により、洪水浸水想定範囲等の課題箇所を極力解消するルート)

➡

 - ・現道改良であるため、サービス速度は向上しない。
 - ・現道改良であるため、大規模災害時の代替性は確保されない。
 - ・現道改良するため、事業費は対策案の中で安価。

3-3) 対策案の比較評価

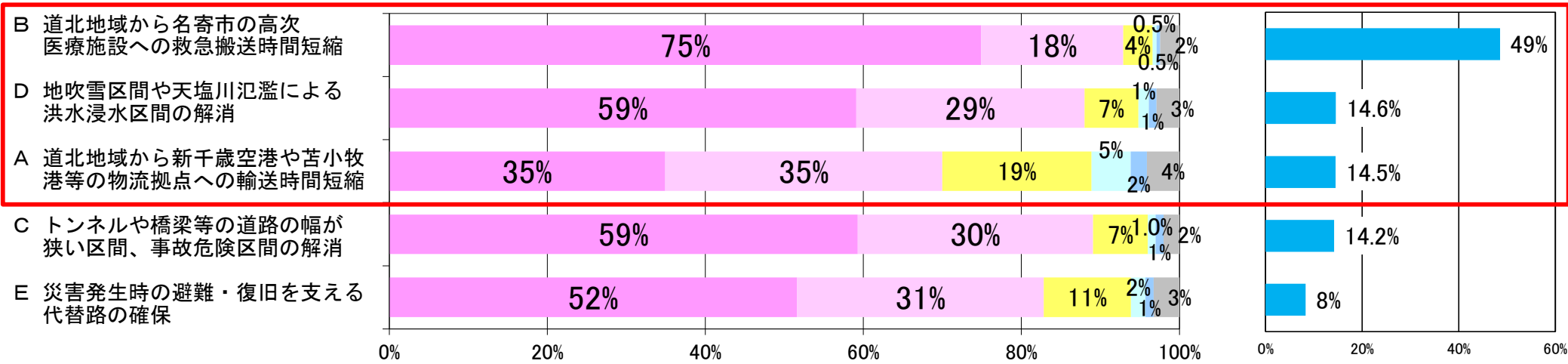
対策案の考え方			【案①】別線市街地アクセスルート	【案②】別線山側ルート	【案③】現道改良ルート
整備イメージ					
区間延長			約20km(自動車専用道路)	約21km(自動車専用道路)	約21km(現道改良)
政策目標	地域の農水産業を支える輸送経路の速達性・安定性・安全性の向上	輸送時の速達性	・稚内港から美深北インターチェンジ(名寄美深道路)への輸送時間短縮効果が大い (整備前121分→整備後117分、4分短縮) ・市街地に近接するため、生産空間からインターチェンジまでのアクセス性に優れる	・稚内港から美深北インターチェンジ(名寄美深道路)への輸送時間短縮効果が比較的大い (整備前121分→整備後118分、3分短縮) ・市街地から迂回して山地を通過するため、生産空間からインターチェンジまでのアクセス性に劣る	・稚内港から美深北インターチェンジ(名寄美深道路)への輸送時間は変わらない (整備前121分→整備後121分、0分短縮) ・市街地からのアクセス性は優れるが、一般国道整備のためサービス速度は向上しない
		輸送時の安定性	・速度低下を招くトンネルや橋梁等の狭小幅員区間の回避(狭小トンネル:1箇所、狭小橋梁:3箇所→整備後0箇所) (狭小幅員区間:現況17.1km→整備後0km)	・速度低下等を招くトンネル・橋梁等の狭小幅員区間を回避(狭小トンネル:1箇所、橋梁:3箇所→整備後0箇所) (狭小幅員区間:現況17.1km→整備後0km)	・速度低下等を招くトンネル・橋梁等の幅員狭小区間を拡幅し解消(狭小トンネル:1箇所、橋梁:3箇所→整備後0箇所) (狭小幅員区間:現況17.1km→整備後0km)
		輸送時の安全性	・事故危険区間や交通事故を招く地吹雪区間を回避(事故危険区間:2区間→0区間) (地吹雪:現況13区間→整備後0区間)	・事故危険区間や交通事故を招く地吹雪区間を回避(事故危険区間:2区間→0区間) (地吹雪:現況13区間→整備後0区間)	・事故危険区間で交通安全対策を実施。 ・交通事故を招く地吹雪区間では防雪対策を実施するが、交差点は対策が出来ないため、多くの区間で解消できない (事故危険区間:2区間→0区間) (地吹雪:現況13区間→整備後9区間)
	地域の暮らしを支える高次救急医療機関への速達性・安定性の向上	救急搬送の速達性	・稚内市立病院から名寄市の高次医療施設までの搬送時間の短縮(整備前145分→整備後141分、4分短縮) ・市街地に近接するため、市街地からインターチェンジまでのアクセス性に優れる	・稚内市立病院から名寄市の高次医療施設までの搬送時間の短縮(整備前145分→整備後142分、3分短縮) ・市街地から迂回して山地を通過するため、市街地からインターチェンジまでのアクセス性に劣る	・稚内市立病院から名寄市の高次医療施設までの搬送時間の短縮効果は変わらない(整備前145分→整備後145分、0分短縮) ・市街地からのアクセス性は優れるが、一般国道整備のためのサービス速度は向上しない
		搬送時の安定性	・地吹雪区間を回避(地吹雪:現況13区間→整備後0区間)	・地吹雪区間を回避(地吹雪:現況13区間→整備後0区間)	・現道改良で、防雪対策を実施するが、交差点は対策が出来ないため、多くの区間で解消できない (地吹雪:現況13区間→整備後9区間)
	災害発生時の避難・復旧活動を支える道路の機能確保	地吹雪、洪水浸水に対する道路機能の確保	・地吹雪や洪水浸水想定範囲の回避(地吹雪:現況13区間→整備後0区間) (洪水浸水想定範囲:現況9.1km→整備後0km)	・地吹雪や洪水浸水想定範囲の回避(地吹雪:現況13区間→整備後0区間) (洪水浸水想定範囲:現況9.1km→整備後0km)	・現道改良で、地吹雪の対策を実施するが、交差点は対策が出来ないため、多くの区間で解消できない (地吹雪:現況13区間→整備後9区間) ・洪水浸水想定範囲は、現道改良の嵩上げにより解消 (洪水浸水想定範囲:現況9.1km→整備後0km)
配慮すべき事項	地域への影響	代替路の確保	・別線整備することで、代替路の確保が可能	・別線整備することで、代替路の確保が可能	・現道改良するため、代替路は確保されない
	環境への影響	家屋や土地利用への影響	・市街地を極力回避するが、一部の家屋や酪農農地に影響がある	・市街地や酪農農地を極力回避するが、一部の家屋に影響がある	・現道の市街地区間も改良するため、沿道家屋への影響が大い
	環境への影響	自然環境への影響	・地形に沿った道路計画が可能となり、改変面積を抑制することが可能	・地形に沿った道路計画が可能となり、改変面積を抑制することが可能	・現道を改良するため、自然環境への影響は小さい
	工事中の影響	工事中の現道交通への影響	・別線整備のため工事中の現道交通への影響は小さい	・別線整備のため工事中の現道交通への影響は小さい	・国道の通行規制や沿道利用の現道交通への影響が大い
	経済性	経済性・概算事業費	・事業費は対策案の中で中位。 約1,050～1,250億円	・案①に比べ延長が長く、事業費は対策案の中で高価。 約1,100～1,300億円	・現道を改良するため、事業費は対策案の中で安価。 約800～1,000億円

注1 上記の時間短縮等の数値については、概略延長に対して設計速度を用いて試算した値であり、今後の詳細なルート・構造検討や接続位置等により変更となる場合があります。
注2 比較表の評価は、現時点で想定される概ねのルートの評価を一般的な目安として記載。【凡例】◎:効果が大い/影響が小さい、○:効果が比較的大い/影響が比較的小い、△:他案に比べ劣る
注3 過去10年における通行止め履歴の有無や1シーズンでの視程障害発生頻度により地吹雪区間を設定。

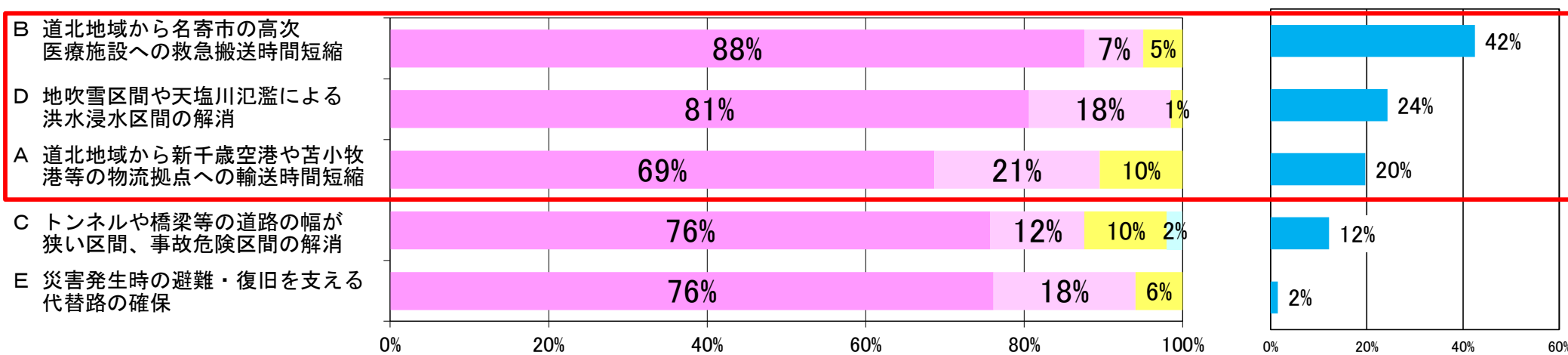
3-4) 対策案の比較評価(対策案検討時に重視すべき事項)

○対策案選定時の重視すべき優先項目は、アンケート調査及びヒアリング調査とも「道北地域から名寄市の高次医療施設への救急搬送時間短縮」、「地吹雪区間や天塩川氾濫による洪水浸水区間の解消」、「道北地域から新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への輸送時間短縮」が、上位となっている。

▼アンケート調査 (アンケート総回答者数 N=7,133 / 優先項目の総回答者数 N= 4,108)



▼ヒアリング調査 (ヒアリング総回答者数 N=67 / 優先項目の総回答者数 N=66)



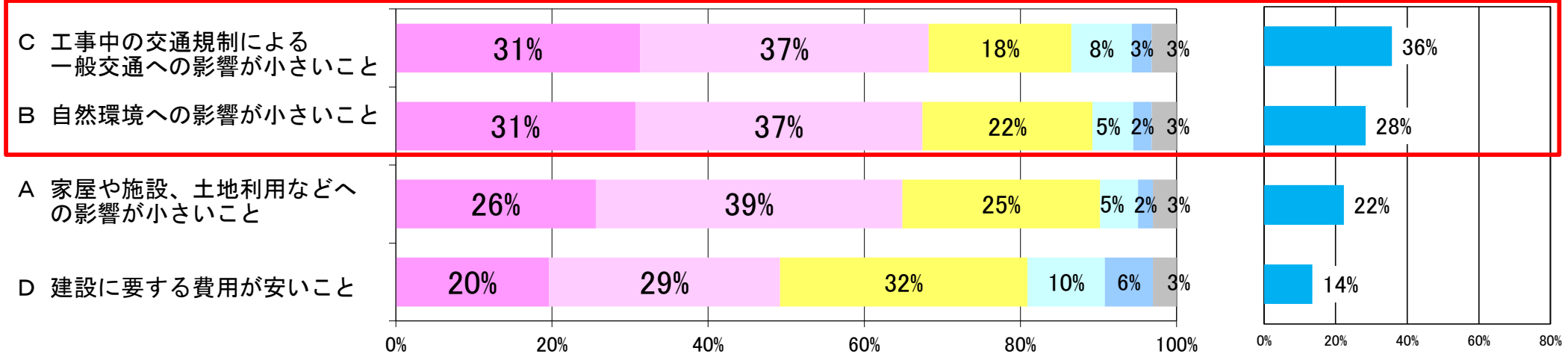
■ 特に重視すべき ■ やや重視すべき ■ どちらともいえない ■ あまり重視する必要はない ■ 重視する必要はない ■ 無回答

※A～Eの5つの設問のうち、優先項目上位3項目かつ「特に重視すべき」「やや重視すべき」の割合が2/3以上の項目を選定し赤枠で表示

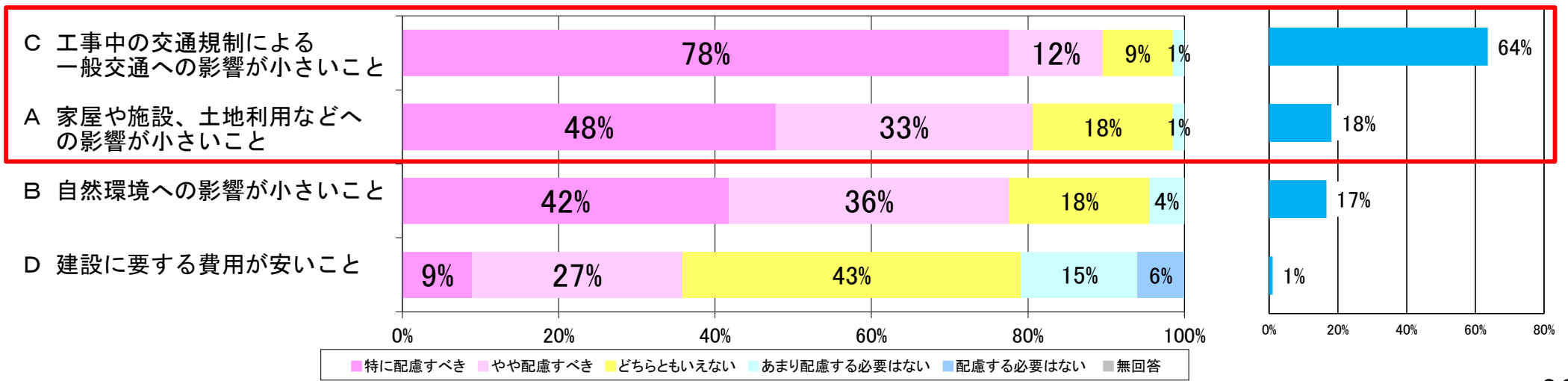
3-5) 対策案の比較評価(対策案比較時に配慮すべき事項)

○対策案選定時の配慮すべき優先項目は、アンケート調査では「工事中の交通規制による一般交通への影響が小さいこと」、「自然環境への影響が小さいこと」が上位であり、ヒアリング調査では、「工事中の交通規制による一般交通への影響が小さいこと」、「家屋や施設、土地利用などへの影響が小さいこと」が上位となっている。

▼アンケート調査 (アンケート総回答者数 N=7,133 / 優先項目の総回答者数 N= 4,023)



▼ヒアリング調査 (ヒアリング総回答者数 N=67 / 優先項目の総回答者数 N=66)



※A～Dの4つの設問のうち、優先項目上位2項目かつ「特に重視すべき」「やや重視すべき」の割合が2/3以上の項目を選定し赤枠で表示

3-6) 対策方針(原案)の検討

対策案の考え方			【案①】別線市街地アクセスルート	【案②】別線山側ルート	【案③】現道改良ルート
整備イメージ					
区間延長			約20km(自動車専用道路)	約21km(自動車専用道路)	約21km(現道改良)
政策目標	地域の農水産業を支える輸送経路の速達性・安定性・安全性の向上	輸送時の速達性	・稚内港から美深北インターチェンジ(名寄美深道路)への輸送時間短縮効果が大い (整備前121分→整備後117分、4分短縮) ・市街地に近接するため、生産空間からインターチェンジまでのアクセス性に優れる	・稚内港から美深北インターチェンジ(名寄美深道路)への輸送時間短縮効果が比較的大い (整備前121分→整備後118分、3分短縮) ・市街地から迂回して山地を通過するため、生産空間からインターチェンジまでのアクセス性に劣る	・稚内港から美深北インターチェンジ(名寄美深道路)への輸送時間は変わらない (整備前121分→整備後121分、0分短縮) ・市街地からのアクセス性は優れるが、一般国道整備のためサービス速度は向上しない
		輸送時の安定性	・速度低下を招くトンネルや橋梁等の狭小幅員区間の回避(狭小トンネル:1箇所、狭小橋梁:3箇所→整備後0箇所) (狭小幅員区間:現況17.1km→整備後0km)	・速度低下等を招くトンネル・橋梁等の狭小幅員区間を回避(狭小トンネル:1箇所、橋梁:3箇所→整備後0箇所) (狭小幅員区間:現況17.1km→整備後0km)	・速度低下等を招くトンネル・橋梁等の幅員狭小区間を拡幅解消(狭小トンネル:1箇所、橋梁:3箇所→整備後0箇所) (狭小幅員区間:現況17.1km→整備後0km)
		輸送時の安全性	・事故危険区間や交通事故を招く地吹雪区間を回避(事故危険区間:2区間→0区間) (地吹雪:現況13区間→整備後0区間)	・事故危険区間や交通事故を招く地吹雪区間を回避(事故危険区間:2区間→0区間) (地吹雪:現況13区間→整備後0区間)	・事故危険区間で交通安全対策を実施。 ・交通事故を招く地吹雪区間では防雪対策を実施するが、交差点は対策が出来ないため、多くの区間で解消できない (事故危険区間:2区間→0区間) (地吹雪:現況13区間→整備後9区間)
	地域の暮らしを支える高次救急医療機関への速達性・安定性の向上	救急搬送の速達性	・稚内市立病院から名寄市の高次医療施設までの搬送時間の短縮(整備前145分→整備後141分、4分短縮) ・市街地に近接するため、市街地からインターチェンジまでのアクセス性に優れる	・稚内市立病院から名寄市の高次医療施設までの搬送時間の短縮(整備前145分→整備後142分、3分短縮) ・市街地から迂回して山地を通過するため、市街地からインターチェンジまでのアクセス性に劣る	・稚内市立病院から名寄市の高次医療施設までの搬送時間の短縮効果は変わらない(整備前145分→整備後145分、0分短縮) ・市街地からのアクセス性は優れるが、一般国道整備のためのサービス速度は向上しない
		搬送時の安定性	・地吹雪区間を回避(地吹雪:現況13区間→整備後0区間)	・地吹雪区間を回避(地吹雪:現況13区間→整備後0区間)	・現道改良で、防雪対策を実施するが、交差点は対策が出来ないため、多くの区間で解消できない (地吹雪:現況13区間→整備後9区間)
	災害発生時の避難・復旧活動を支える道路の機能確保	地吹雪、洪水浸水に対する道路機能の確保	・地吹雪や洪水浸水想定範囲の回避(地吹雪:現況13区間→整備後0区間) (洪水浸水想定範囲:現況9.1km→整備後0km)	・地吹雪や洪水浸水想定範囲の回避(地吹雪:現況13区間→整備後0区間) (洪水浸水想定範囲:現況9.1km→整備後0km)	・現道改良で、地吹雪の対策を実施するが、交差点は対策が出来ないため、多くの区間で解消できない (地吹雪:現況13区間→整備後9区間) ・洪水浸水想定範囲は、現道改良の嵩上げにより解消 (洪水浸水想定区間:現況9.1km→整備後0km)
配慮すべき事項	地域への影響	代替路の確保	・別線整備することで、代替路の確保が可能	・別線整備することで、代替路の確保が可能	・現道改良するため、代替路は確保されない
		家屋や土地利用への影響	・市街地を極力回避するが、一部の家屋や酪農農地に影響がある	・市街地や酪農農地を極力回避するが、一部の家屋に影響がある	・現道の市街地区間も改良するため、沿道家屋への影響が大い
	環境への影響	自然環境への影響	・地形に沿った道路計画が可能となり、改変面積を抑制することが可能	・地形に沿った道路計画が可能となり、改変面積を抑制することが可能	・現道を改良するため、自然環境への影響は小さい
	工事中の影響	工事中の現道交通への影響	・別線整備のため工事中の現道交通への影響は小さい	・別線整備のため工事中の現道交通への影響は小さい	・国道の通行規制や沿道利用の現道交通への影響が大い
	経済性	経済性・概算事業費	・事業費は対策案の中で中位。	・案①に比べ延長が長く、事業費は対策案の中で高価。	・現道を改良するため、事業費は対策案の中で安価。
			約1,050～1,250億円	約1,100～1,300億円	約800～1,000億円

注1 比較表の評価は、現時点で想定される概ねのルートの評価を一般的な目安として記載。【凡例】◎:効果が大い/影響が小さい、○:効果が比較的大い/影響が比較的小い、△:他案に比べ劣る
注2 薄黄着色箇所は、アンケート・ヒアリングのいずれかで、優先項目上位のうち、重視・配慮すべきとされている項目。赤枠箇所は、各比較項目で最も優位な案の箇所。
注3 過去10年における通行止め履歴の有無や1シーズンでの視程障害発生頻度により地吹雪区間を設定。

※上記の時間短縮等の数値については、概略延長に対して設計速度を用いて試算した値であり、今後の詳細なルート・構造検討や接続位置等により変更となる場合があります。

比較評価の結果、対応方針(原案)については、すべての政策目標の達成が見込め、かつ、地域が望む重視・配慮すべき項目におおむね適切に対応可能な
【案①】別線市街地アクセスルートを対応方針(原案)とする。

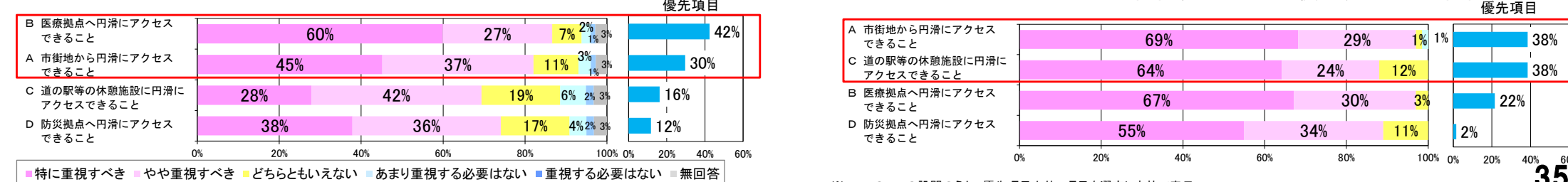
3-7) 対策方針(原案)の検討(インターチェンジで重視すべき事項)

○インターチェンジの配置については、洪水浸水想定区域を回避しつつ、市街地・医療拠点・道の駅等の休憩施設とのアクセス性に配慮。

○インターチェンジ配置での優先項目は、アンケート調査では「医療拠点へ円滑にアクセスできること」、「市街地から円滑にアクセスできること」が上位であり、ヒアリング調査では、「市街地から円滑にアクセスできること」、「道の駅等の休憩施設に円滑にアクセスできること」が上位となっている。



▼アンケート調査(アンケート総回答者数 N=7,133 / 優先項目の総回答者数 N= 4,014) ▼ヒアリング調査(ヒアリング総回答者数 N=67 / 優先項目の総回答者数 N=66)



4. 自治体への意見照会結果

4-1) 自治体への意見照会結果(対応方針(原案)に対する意見)

▼意見照会の回答(要旨)

自治体名	意見
北海道	<p>○北海道縦貫自動車道(中川～天塩)の対応方針(原案)について同意します。</p> <p>○本道における高規格道路ネットワークは、圏域間の交流拡大や経済・社会活動の活性化が期待されるほか、地域医療への支援や大規模災害時における緊急輸送、代替性の確保など、重要な役割を果たすものです。</p> <p>○北海道縦貫自動車道(中川～天塩)の整備は、ほたて・乳製品など農水産物をはじめとする物流の効率化や、道北地域で唯一の第3次救急医療機関のある名寄市への救急搬送における速達性や安定性の向上、暴風雪など異常気象時の道路機能の確保など多くの効果を発揮するものと考えています。</p> <p>○このため、北海道としても、事業化の際には当該区間の整備効果が最大限発揮されるよう、関係市町と連携してまいります。</p> <p>○つきましては、対応方針の決定に際し、地域の意見を十分反映していただくとともに、当該道路を早期に事業化していただくよう特段のご配慮をお願いいたします。</p>

▼自治体意見照会の回答(北海道知事)

<p>建 政 第 4 4 2 号 令和 7 年 (2025 年) 12 月 5 日</p> <p>北海道開発局長 遠藤 達哉 様</p> <p>北海道知事 鈴木 直 道 (公 印 省 略)</p> <p>道路事業の計画段階評価に係る意見照会について (回答) 日頃から北海道の建設行政の推進につきましては、格別の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。 さて、令和 7 年 11 月 18 日付け北開局道計第 64 号で照会がありましたこのことについて、別紙「計画段階評価に係る「対応方針(原案)」に対する意見」とおり回答いたします。</p> <p>連絡先 建設部建設政策局建設政策課 政策調整係 TEL 011-231-4111 内線 29-124 FAX 011-232-9162</p>
--

別 紙 計画段階評価に係る「対応方針(原案)」に対する意見	
(道路事業)	
事業名	「対応方針(原案)」に対する意見
北海道縦貫自動車道(中川～天塩)	<p>北海道縦貫自動車道(中川～天塩)の対応方針(原案)について同意します。 本道における高規格道路ネットワークは、圏域間の交流拡大や経済・社会活動の活性化が期待されるほか、地域医療への支援や大規模災害時における緊急輸送、代替性の確保など、重要な役割を果たすものです。 北海道縦貫自動車道(中川～天塩)の整備は、ほたて・乳製品など農水産物をはじめとする物流の効率化や、道北地域で唯一の第3次救急医療機関のある名寄市への救急搬送における速達性や安定性の向上、暴風雪など異常気象時の道路機能の確保など多くの効果を発揮するものと考えています。 このため、北海道としても、事業化の際には当該区間の整備効果が最大限発揮されるよう、関係市町と連携してまいります。 つきましては、対応方針の決定に際し、地域の意見を十分反映していただくとともに、当該道路を早期に事業化していただくよう特段のご配慮をお願いいたします。</p>

5. 対応方針（案）のまとめ

5-1) 対応方針(案)

1. 道路整備の必要性

【課題】

- 道北地域は日本の食を支える生産空間であり、主要産品は新千歳空港や苫小牧港などを利用して全国に出荷されるが、国道40号中川～天塩の狭小幅員区間の連続や吹雪や吹き溜まりによる輸送時の速達性・安定性・安全性が課題。
- 道北地域では、三次救急医療機関や心疾患を担う医療施設のある市町村が名寄市のみであり、名寄市への救急搬送件数は増加傾向であるが、稚内市から三次救急医療機関までの搬送時間は全道で最も長く、速達性の向上が課題。冬期悪天候時には、さらに搬送時間が遅延するため、救急搬送の安定性の向上が課題。
- 道北地域では暴風雪の発生要因である冬期の日本海低気圧の通過回数、暴風雪の発生による国道の通行止めが増加傾向。また、天塩川流域では激しい雨(30mm/h以上)の発生回数が増加傾向。冬期悪天候や天塩川氾濫の洪水浸水により通行止めが発生した場合、大幅な迂回を要するため国道機能の確保が課題。

【政策目標】

- 地域の農水産業を支える輸送経路の速達性・安定性・安全性の向上
- 地域の暮らしを支える高次救急医療機関への速達性・安定性の向上
- 災害発生時の避難・復旧活動を支える道路の機能確保

2. 対応方針(案)

【案1】別線市街地アクセスルートを対応方針(案)とする

【理由】

- 【案①】別線市街地アクセスルートは、【案②】、【案③】に比べ、概ね全ての政策目標において同等以上の達成が見込め優れている。
- 地域意見聴取の結果、政策目標の達成のためには、「道北地域から名寄市の高次医療施設への救急搬送時間短縮」、「地吹雪区間や天塩川氾濫による洪水浸水区間の解消」、「道北地域から新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への輸送時間短縮」がアンケート調査またはヒアリング調査で特に重視されている。
- インターチェンジの詳細な位置や構造については、地域意見聴取の結果を踏まえ、「医療拠点へ円滑にアクセスできること」、「市街地から円滑にアクセスできること」、「道の駅等の休憩施設に円滑にアクセスできること」に寄与する配置を検討する。

3. その他

- 今後の詳細な道路構造等の検討にあたっては、工事中の現道交通への影響、地域への影響、自然環境への影響、経済性等に配慮しながら計画を進める。

5-2) 対応方針(案)

- 洪水浸水想定区域や地吹雪発生区間の解消は元より、名寄市の高次医療施設への救急搬送時間及び新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への輸送時間を短縮可能な【案①】別線市街地アクセスルートに対応方針(案)とする。
- インターチェンジの検討位置については、市街地・医療拠点・道の駅等の休憩施設とのアクセス性に配慮する。

